



TCP/IP 企業内・企業間通信ミドルウェア

HULFT7

Manager

導入マニュアル

- Microsoft、Windows NT、Windows2000、Windows XP、Windows Server 2003、Windows Vista、Windows Server 2008、Visual C++、Visual Basicは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- i5/OS、z/OS、AIX、RACFは、International Business Machines Corporationの米国およびその他の国における商標です。
- MSP、XSPは、富士通株式会社の登録商標です。
- VOS3は、株式会社日立製作所のオペレーティングシステムの名称です。
- ORACLEは、米国Oracle Corporation およびその子会社、関連会社の登録商標です。
- UNIXは、The Open Groupの登録商標です。
- HP-UX、Serviceguard、Himalaya、NonStop Serverは、米国Hewlett-Packard Companyの登録商標です。
- Solarisは、米国Sun Microsystems,Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- Linuxは、Linus Torvaldsの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Adobe、ReaderはAdobe System Incorporated(アドビシステムズ社)の米国ならびに他の国における商標または登録商標です。
- ACMSは、株式会社データ・アプリケーションの登録商標です。
- CLUSTERPROは、日本電気株式会社の登録商標です。
- JavaおよびすべてのJava関連の商標およびロゴは、米国Sun Microsystems,Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- C4S(R)は、株式会社シーフォーテクノロジーの登録商標です。
- VERITAS Cluster Serverは、米国 Symantec Corporation の米国内およびその他の国における登録商標または商標です。
- DNCWARE ClusterPerfect は、東芝ソリューション株式会社の商標です。
- SteelEye、LifeKeeperは、米国およびその他の国におけるSteelEye Technology, Incの登録商標です。
- OpenSSL License
Copyright (c) 1998-2005 The OpenSSL Project. All rights reserved.
"This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit. (<http://www.openssl.org/>)"
- SSLeay License
Copyright (C) 1995-1998 Eric Young (eay@cryptsoft.com) All rights reserved.
"This product includes cryptographic software written by Eric Young (eay@cryptsoft.com)"
- その他の製品名等の固有名称は、各メーカーの商標または登録商標です。

お願い

- 本書の一部、または全部を無断で他に転載することを禁じます。
- 本書および本製品は、予告なしに変更されることがあります。

はじめに

本書は、「HULFT7 Manager」を初めて使用する方やバージョンアップを実施される方に向けて、製品のインストールから環境設定、および基本の操作方法を説明するマニュアルです。

なお、このマニュアルでは、Windows のシステム管理者レベルの知識を前提に解説しています。

・マニュアルの構成

このマニュアルは、以下に示す章で構成されています。

- 第1章 導入にあたり
- 第2章 インストール方法
- 第3章 接続先 HULFT の設定
- 第4章 HULFT Manager の起動方法
- 第5章 操作方法
- 第6章 HULFT Manager の終了方法
- 第7章 バックアップ方法
- 第8章 テスト版から正式版への移行方法
- 第9章 バージョンアップ方法
- 第10章 リビジョンアップ方法
- 第11章 アンインストール方法

・マニュアルの表記

〈製品名称の表記〉

- ・このマニュアルでは「HULFT7 Manager」を「HULFT Manager」と表記しています。
また、HULFT Ver.7 に対応する「HULFT7 Manager 接続オプション」と HULFT Ver.7 未満に対応する「マネジャー接続・オプション」を総称して、「HULFT Manager 接続オプション」と表記しています。
- ・以下の製品は、Ver. 6.1.0 以降で名称を変更しました。
HULFT PPP クライアント for Windows → HULFT BB クライアント for Windows
HULFT PPP サーバ for Windows → HULFT BB サーバ for Windows

〈バージョン・レベル・リビジョンの表記と考え方〉

HULFT および HULFT Manager では、製品のバージョン情報を、次の形式で表しています。

例) 7. 0. 0

① ② ③

① : バージョン

② : レベル

③ : リビジョン

- ①の数字がアップする場合を「バージョンアップ」、
- ②の数字がアップする場合を「レベルアップ」、
- ③の数字がアップする場合を「リビジョンアップ」と呼びます。

＜コマンドやコントロールカードの説明に使用する表記＞

- [] : 大かっこ。このかっこで囲まれた項目は、省略できることを示します。
- { } : 中かっこ。かっこ内の項目の中から 1 つを選択する必要があることを示します。
- …… : 繰り返し記号。必要に応じて繰り返し入力する項目を示します。繰り返し記号は、単一の語の後ろにある場合もあれば、大かっこまたは中かっこで囲まれたグループの後ろに示されている場合もあります。形式の中での大かっこまたは中かっこで囲まれた部分は 1 つの単位とみなすので、繰り返しを指定するときは、その単位で繰り返します。
- | : 縦線。選択項目の区切りに使われます。
- 斜体文字 : 可変値(処理対象や状況に応じた値)を指定することを示します。
例) *yyyymmdd*
- カンマ(,)、等号(=)などの記号は表示されている位置に入力します。

＜コマンドや管理情報の設定値＞

- 英大文字 : 英大文字(A～Z)が設定できることを示します。
- 英小文字 : 英小文字(a～z)が設定できることを示します。
- 英字 : 英大文字(A～Z)、および英小文字(a～z)が設定できることを示します。
- 英数字 : 英字(A～Z, a～z)、および数字(0～9)が設定できることを示します。

・オンラインヘルプの利用方法

HULFT Manager では、機能および操作方法の詳細を解説するオンラインヘルプを提供しています。オンラインヘルプは、製品をインストールした後、スタートメニューから[HULFT Family]-[インストール時に設定した登録名]-[HULFT Manager ヘルプ]をクリックすると表示することができます。

目 次

第 1 章 導入にあたり	1-1
1.1 HULFT Manager とは.....	1-2
1.2 インストールに必要な環境	1-3
1.2.1 マシン環境	1-3
1.2.2 必要なソフトウェア.....	1-3
1.2.3 相手マシンとの接続の確認.....	1-4
1.2.4 HULFT Manager の導入に必要となるディスク容量.....	1-4
第 2 章 インストール方法	2-1
2.1 HULFT Manager のインストール手順.....	2-2
2.2 SQLite のインストール.....	2-16
第 3 章 接続先 HULFT の設定.....	3-1
3.1 登録手順.....	3-2
3.1.1 HULFT Manager 接続オプションの導入	3-2
3.1.2 詳細ホスト情報への登録.....	3-2
第 4 章 HULFT Manager の起動方法	4-1
4.1 HULFT Manager の起動手順.....	4-2
第 5 章 操作方法	5-1
5.1 HULFT Manager の起動.....	5-2
5.2 接続先ホストの登録	5-2
5.2.1 フォルダの作成	5-2
5.2.2 接続先ホスト情報の登録.....	5-3
5.3 HULFT Manager 利用者の設定.....	5-6
5.3.1 ユーザ情報の登録	5-6
5.3.2 マッピングの設定	5-8
5.4 リモート接続	5-9
5.4.1 ホストへの接続	5-9
5.4.2 ホストへの接続の終了.....	5-12
5.5 一括配布機能	5-13
5.5.1 一括配布機能の起動.....	5-13
5.5.2 配布先グループの設定.....	5-14
5.5.3 管理情報の取得	5-18
5.5.4 管理情報の追加・更新・削除.....	5-20
5.5.5 管理情報の一括配布.....	5-23
5.5.6 一括配布画面の終了.....	5-24
5.6 HULFT Manager の終了.....	5-24
第 6 章 HULFT Manager の終了方法	6-1
6.1 HULFT Manager の終了手順.....	6-2
第 7 章 バックアップ方法	7-1
7.1 バックアップ手順	7-2

第 8 章	テスト版から正式版への移行方法.....	8-1
8.1	移行の準備.....	8-2
8.2	移行作業の手順.....	8-2
第 9 章	バージョンアップ方法.....	9-1
9.1	バージョンアップの準備.....	9-2
9.2	バージョンアップの手順.....	9-2
9.2.1	新バージョンのインストール.....	9-2
9.2.2	情報ファイルのコンバート.....	9-3
9.2.3	旧バージョンのアンインストール.....	9-4
9.2.4	HULFT Manager 利用者の登録.....	9-4
9.2.5	バージョンアップ作業後の確認.....	9-4
第 10 章	リビジョンアップ方法.....	10-1
10.1	リビジョンアップ前作業.....	10-2
10.1.1	HULFT Manager の終了.....	10-2
10.1.2	HULFT Manager データのバックアップ.....	10-2
10.2	リビジョンアップ作業.....	10-3
10.2.1	新リビジョンの HULFT Manager インストール.....	10-3
10.2.2	作業後の確認.....	10-3
第 11 章	アンインストール方法.....	11-1
11.1	HULFT Manager のアンインストール手順.....	11-2
11.1.1	HULFT Manager の終了.....	11-2
11.1.2	HULFT Manager のアンインストール.....	11-2

第1章

導入にあたり

HULFT Managerの導入にあたり、事前に確認していただきたい内容について説明します。

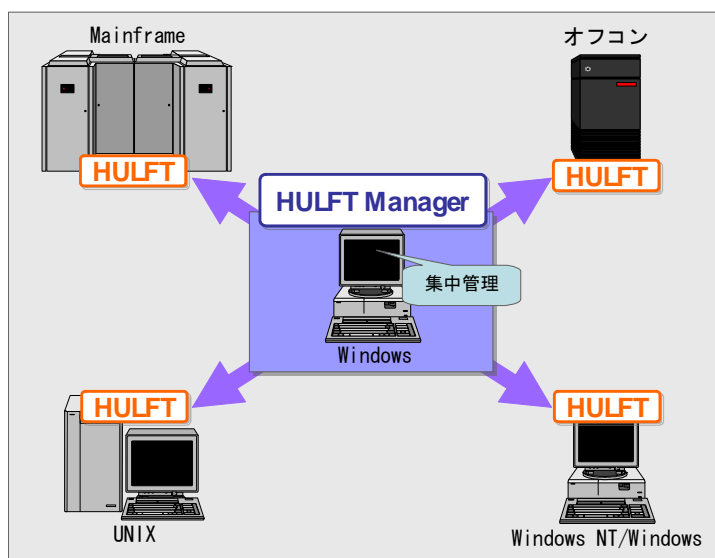
1.1 HULFT Manager とは

HULFT Manager とは、LAN で接続された Windows PC(Personal Computer)から各ホストに導入されている HULFT を集中管理するためのシステムです。

各ホストに導入された HULFT では、管理画面を使用して各種管理情報の登録や集配信状況の確認、配信、送信、再配信、再送を行うことができます。HULFT Manager を導入すると、各ホストの HULFT の機能を、遠隔地から簡単な操作方法で 사용할 ことができます。

接続先ホスト(HULFT Manager から接続するホストを「接続先ホスト」といいます)としては、Mainframe(zOS)、UNIX/Linux、i5OS、Windows があります。どのホストに接続した場合でも、同様の画面(ファイルの定義など部分的に異なる箇所はあります)、同一の操作方法で運用できます。

HULFT Manager では、1 台の PC に複数のウインドウ(管理画面)を表示することができ、各ホストの HULFT 管理画面(Mainframe、UNIX/Linux、i5OS など)に比べて操作性が向上しています。さらに、各ホストの管理情報を一括配布で統合管理できるため、TCO の削減が図れます。



【注意】 HULFT Manager を使用する場合、接続するホストに HULFT Manager 接続オプションが導入されている必要があります。

1.2 インストールに必要な環境

HULFT Manager のインストールに必要な環境について説明します

1.2.1 マシン環境

HULFT Manager に必要なマシン環境を次に示します。導入前に、次のマシン環境が整っていることを確認してください。

- (1) Microsoft Windows 2000 (Service Pack 4 以降)、Windows XP (Service Pack 2 以降)、Windows Server 2003、Windows Vista、または Windows Server 2008 が正しくインストールされていること。

詳細については、各 OS のマニュアルを参照してください。

- (2) HULFT 関連の製品が起動している場合は、必ず HULFT 関連のアプリケーションが停止しており、かつ、サービスが停止していること。

なお、下位バージョンがインストールされているマシンにインストールする場合は、「第 9 章 バージョンアップ方法」を参照してください。

1.2.2 必要なソフトウェア

HULFT Manager を動作させるためには、次のソフトウェアが正しく組み込まれていることが必要です。

<OS 共通>

- Microsoft TCP/IP (OS に付属)

<Windows2000、Window XP、Windows Server 2003 の場合>

- Microsoft .NET Framework 2.0 Service Pack 1
- Microsoft .NET Framework 2.0 SP1 日本語 Language Pack
- Windows Installer 3.1
- SQLite ODBC Driver
- Microsoft Data Access Components (MDAC) 2.8 以上 (Windows 2000、Windows Server 2003 の場合に必要となります)

【注意】 Windows 2000 では Microsoft .NET Framework 2.0 Service Pack 1 のインストールの前に、Windows 2000 用セキュリティ問題の修正プログラム (KB835732) をインストールする必要があります。

<Windows Vista、Windows Server 2008 の場合>

- Microsoft .NET Framework 3.5 Service Pack 1
- Microsoft .NET Framework 3.5 SP1 日本語 Language Pack
- SQLite ODBC Driver

【備考】

- Microsoft .NET Framework は、Microsoft 社の .NET 技術を利用した Windows アプリケーションを動作させるためのコンポーネントです。
Microsoft .Net Framework が未導入の環境では HULFT Manager をインストールすることができません。
- HULFT Manager のインストール時に SQLite ODBC Driver が未導入だった場合は、SQLite ODBC Driver を同時にインストールする事が可能です。
- Microsoft Data Access Components(MDAC)は Microsoft 社が提供するデータベースアクセスのためのコンポーネントです。

1.2.3 相手マシンとの接続の確認

HULFT Manager は、TCP/IP プロトコル(OS に付属しています)を使用して相手マシンに接続し、転送を行わせます。転送相手となるマシンをホスト名で認識する関係上、ホスト名で接続の検査(ping コマンド)が通る必要があります。

HULFT Manager の導入前に、あらかじめ、当マシンのホスト名(自ホスト名)で接続の検査が通ることを確認しておいてください。

■ ping の実行方法

コマンドプロンプトを起動し、次のように入力して ping を実行します。

(記述例)

- IPv4 の場合

ping 相手ホスト名

例) ping HOST01

- IPv6 の場合

ping6 相手ホスト名

例) ping6 HOST01

詳細については、各 OS のマニュアルを参照してください。

1.2.4 HULFT Manager の導入に必要なディスク容量

インストール時にハードディスクの空き容量が 160MB 以上なくてはなりません。

第2章

インストール方法

HULFT Managerのインストール方法について説明します。

2.1 HULFT Manager のインストール手順

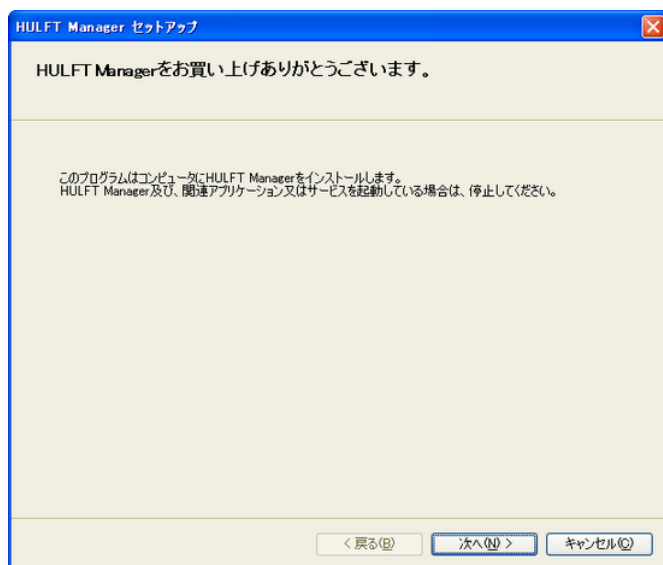
HULFT Manager のインストールには、セットアッププログラムを使用します。

下位バージョンの HULFT Manager がインストールされている場合は、あらかじめ「第 9 章 バージョンアップ方法」を参照してください。

【備考】セットアッププログラムの画面では、[戻る]ボタンをクリックすると、前の画面に戻ることができます。また、[キャンセル]ボタンをクリックすると、インストールを終了できます。

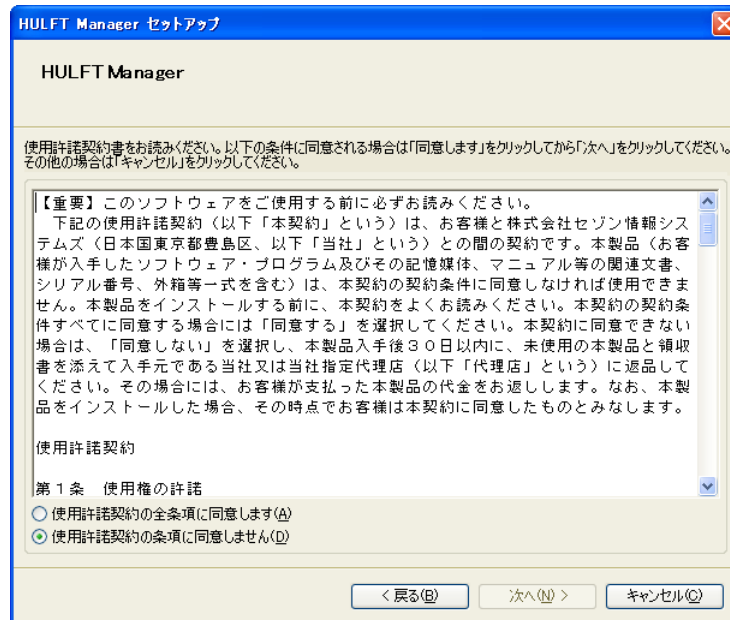
(1) セットアッププログラムの起動

インストール CD 内の Setup.exe をダブルクリックすると、以下の画面が表示されます。
[次へ]ボタンをクリックしてください。



(2) 使用許諾契約書の確認

HULFT Manager の「使用許諾契約書」が表示されます。使用許諾契約の内容を確認してください。同意する場合は「使用許諾契約の全条項に同意します」を選択して、[次へ]ボタンをクリックします。



(3) シリアル番号およびプロダクトキーの登録

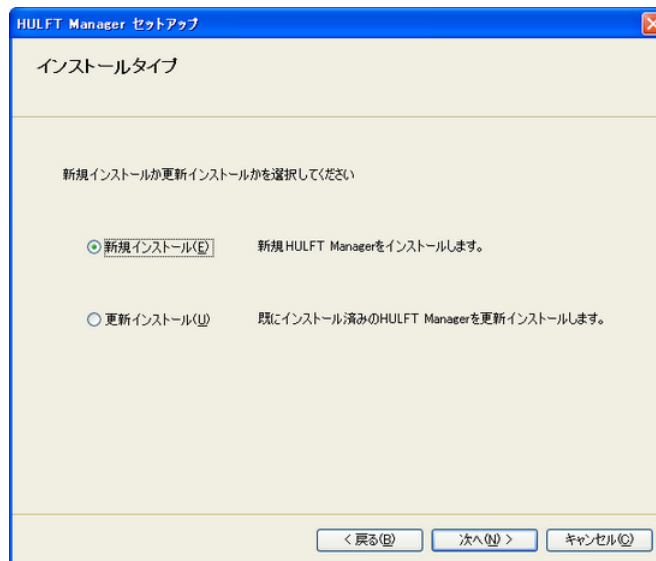
「ユーザ情報」画面が表示されます。製品のシリアル番号およびプロダクトキーを入力して、[次へ]ボタンをクリックします。

【備考】

- プロダクトキーは、画面に表示された URL から入手します。
- ホスト名は、hostname コマンドを実行して取得することができます。
- ホスト名を変更した場合は、再度プロダクトキーを入手し、再セットアップを行う必要があります。再セットアップの際は、インストールタイプに「更新インストール」を選択してください。

(4) インストールタイプの選択

「インストールタイプ」画面で「新規インストール」または「更新インストール」のどちらかを選択し、[次へ]ボタンをクリックします。

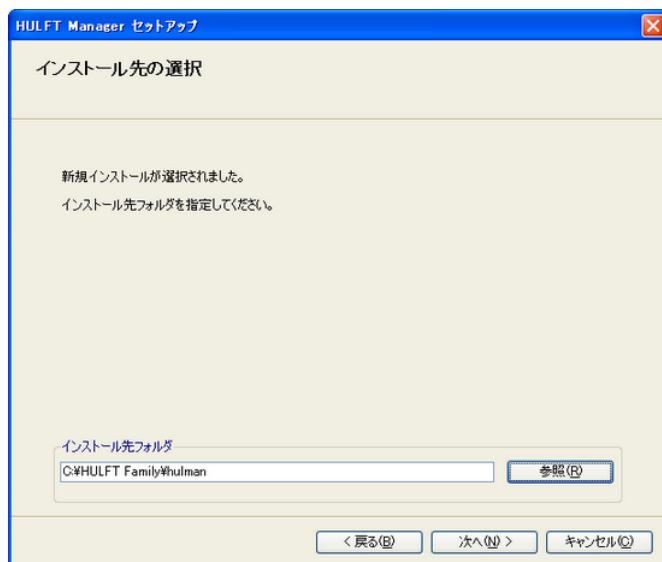


新規に HULFT Manager の環境を構築する場合は「新規インストール」を、すでに HULFT Manager がインストールされており既存の環境を引き継いで使用したい場合は「更新インストール」を選択してください。

(5) インストール先の選択(新規インストール)

新規インストールの場合、「インストール先の選択」画面でインストール先のフォルダを指定します。

デフォルトでは「インストール先ドライブ:¥HULFT Family¥hulman」が指定されています。指定を変更する場合は、テキストボックスに直接入力するか、または、[参照]ボタンをクリックして目的のフォルダを選択してください。



インストール先フォルダの指定内容を確認した後、[次へ] ボタンをクリックします。

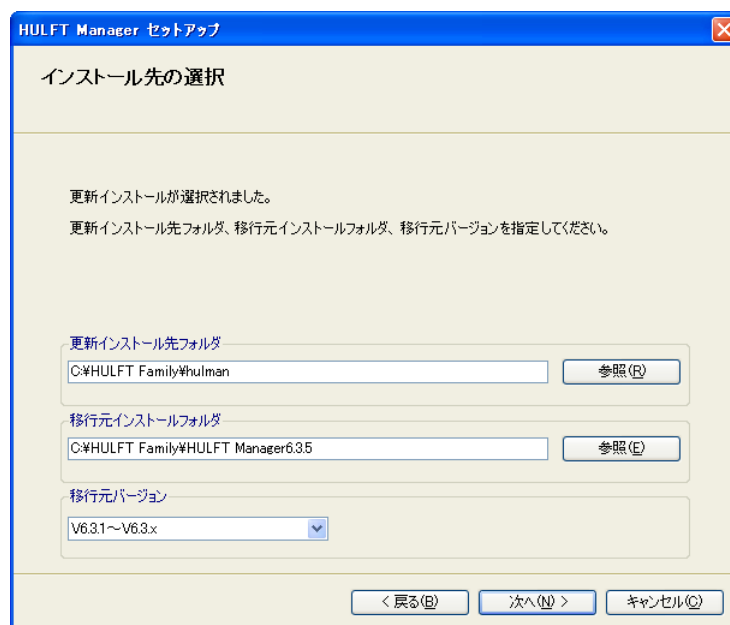
(6) インストール先の選択 (更新インストール)

更新インストールの場合は「インストール先の選択」画面で、「更新インストール先フォルダ」、「移行元インストールフォルダ」、および「移行元バージョン」を指定します。

【備考】 移行元インストールフォルダとは、すでに HULFT Manager がインストールされているフォルダを指します。

まず、新しい HULFT Manager のインストール先を、更新インストール先フォルダに指定します。テキストボックスに直接入力するか、または、[参照]ボタンをクリックして目的のフォルダを選択します。

さらに、移行元インストールフォルダを指定し、移行元バージョンをリストから選択してください。



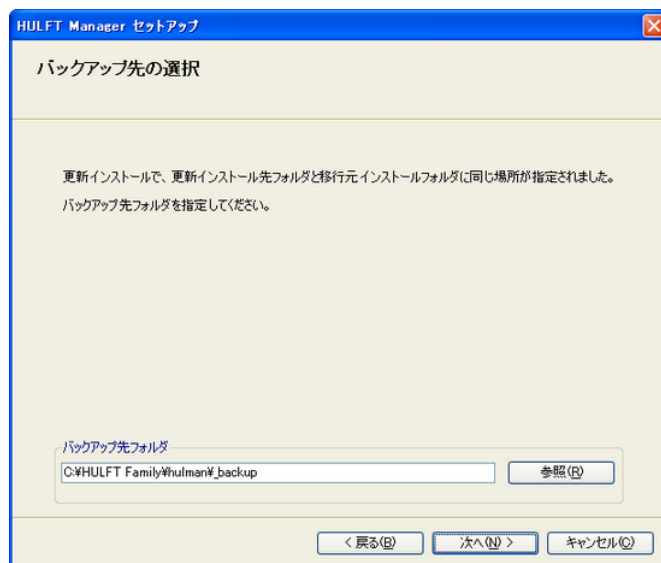
The image shows a Windows-style dialog box titled "HULFT Manager セットアップ" (HULFT Manager Setup). The main heading is "インストール先の選択" (Select Installation Destination). Below the heading, a message states: "更新インストールが選択されました。更新インストール先フォルダ、移行元インストールフォルダ、移行元バージョンを指定してください。" (Update installation was selected. Please specify the update installation destination folder, the source installation folder, and the source version). There are three input fields: 1. "更新インストール先フォルダ" (Update installation destination folder) with the text "C:\HULFT Family\hulman" and a "参照(R)" (Reference) button. 2. "移行元インストールフォルダ" (Source installation folder) with the text "C:\HULFT Family\HULFT Manager6.3.5" and a "参照(E)" (Reference) button. 3. "移行元バージョン" (Source version) with a dropdown menu showing "V6.3.1~V6.3.x". At the bottom, there are three buttons: "< 戻る(B)" (Back), "次へ(N) >" (Next), and "キャンセル(C)" (Cancel).

インストール先の選択内容を確認した後、[次へ]ボタンをクリックします。

【注意】 V6 から V7 へのようなアップグレードインストールの場合には更新インストール先フォルダと移行元インストールフォルダを同一フォルダを指定することはできません。別フォルダを指定してください。

「インストール先の選択」画面で、更新インストール先フォルダと移行元インストールフォルダに同じフォルダを指定した場合には、「バックアップ先の選択」画面が表示されます。

デフォルトでは「インストール先ドライブ:¥HULFT Family¥hulman¥_backup」が指定されています。指定を変更する場合は、テキストボックスに直接入力するか、または、[参照]ボタンをクリックして目的のフォルダを選択してください。



バックアップ先の選択内容を確認した後、[次へ]ボタンをクリックします。

(7) 登録名の指定

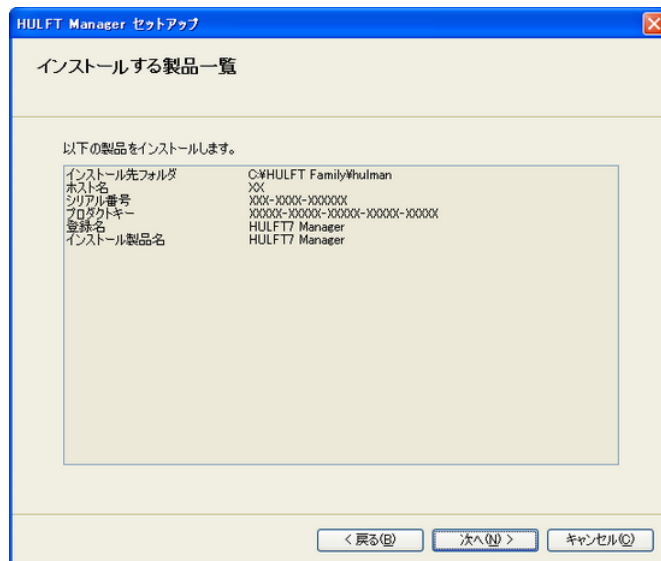
「登録名」画面が表示されます。登録名は、スタートメニューに表示される名称です。また、アンインストールの際、製品を選択する名称としても使用されます。

デフォルトでは「HULFT7 Manager」が指定されています。必要に応じ、テキストボックスに変更する名称を入力してください。

登録名の指定内容を確認した後、[次へ]ボタンをクリックします。

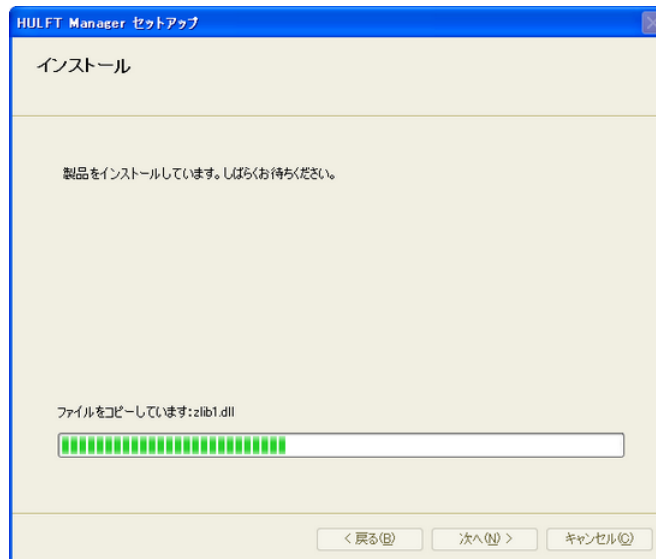
(8) インストール内容の確認

「インストールする製品一覧」画面の内容を確認し、問題がなければ[次へ]ボタンをクリックします。



(9) インストール処理

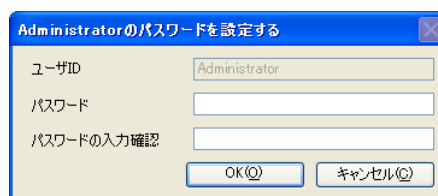
インストール処理中は、以下の画面が表示されます。



ファイルのコピーが完了されたことを確認した後、[次へ]ボタンをクリックします。

(10) Administrator のパスワード設定

Administrator ユーザのパスワードを設定する画面が表示されます。Administrator は、HULFT Manager のすべての機能を使用できる管理者ユーザです。HULFT Manager のユーザ管理（ユーザの登録、各ユーザへの権限の設定など）やシステムの環境設定（ログインや操作ログの出力に関する設定など）を行うことができます。

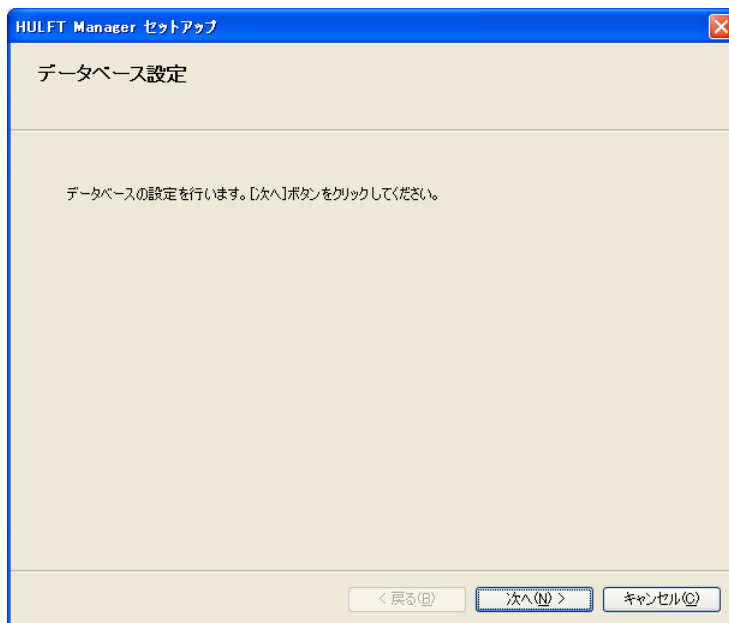


「パスワード」に、Administrator ユーザのパスワードを、8～32 桁の英数字で指定します。次に、「パスワードの入力確認」に同じ指定内容を入力し、[OK]ボタンをクリックしてください。

【注意】 パスワードの入力は省略できません。必ず指定してください。

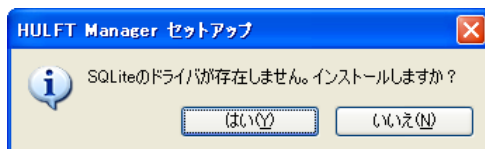
(11) データベース設定

インストールプログラムにてデータベースの設定を行います。



[次へ]ボタンをクリックしてください。

SQLite のドライバが存在しない場合、以下のメッセージが表示されます。

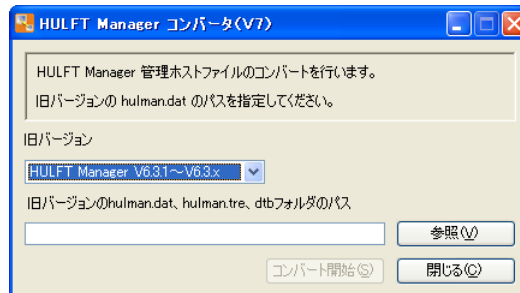


[はい]ボタンをクリックすると、自動的に SQLite のインストーラが起動されます。SQLite のインストール手順については、「2.2 SQLite のインストール」を参照してください。

(12) コンバート処理(更新インストール)

更新インストールの場合は、「HULFT Manager コンバータ (V7)」画面が表示されます。

【備考】コンバート処理を実行すると、移行元の HULFT Manager に登録した接続先ホストの情報を、新しくインストールする HULFT Manager に引き継ぐことができます。コンバートを行わない場合は、[閉じる]ボタンをクリックしてください。



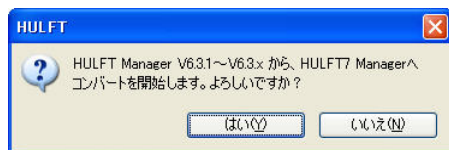
「旧バージョン」のリストから、移行元となる HULFT Manager のバージョンを選択してください。

- ・ HULFT Manager Ver. 1、Ver. 2 からの移行
旧バージョンに「HULFT Manager V1、V2」を指定します。
- ・ HULFT Manager Ver. 5.0 からの移行
旧バージョンに「HULFT Manager V5.0」を指定します。
- ・ HULFT Manager Ver. 5.1、Ver. 5.2 からの移行
旧バージョンに「HULFT Manager V5.1、V5.2」を指定します。
- ・ HULFT Manager Ver. 6.0、Ver. 6.1、Ver. 6.2 からの移行
旧バージョンに「HULFT Manager V6.0、V6.1、V6.2」を指定します。
- ・ HULFT Manager Ver. 6.3.0 からの移行
旧バージョンに「HULFT Manager V6.3.0」を指定します。
- ・ HULFT Manager Ver. 6.3.1、Ver. 6.3.2、Ver. 6.3.3、Ver. 6.3.4、Ver. 6.3.5、Ver. 6.3.6、Ver. 6.3.7 からの移行
旧バージョンに「HULFT Manager V6.3.1~V6.3.x」を指定します。

【注意】「旧バージョン」を誤って指定した場合、正常にコンバート処理が実行されません。

さらに、移行元の HULFT Manager が格納されたフォルダのパスを、テキストボックスに直接入力するか、または、[参照]ボタンをクリックして目的のフォルダを選択してください。

[コンバート開始]ボタンをクリックすると、コンバートの開始を確認するダイアログが表示されます。[はい]ボタンをクリックするとコンバート処理が開始されます。
ダイアログの表示例を次に示します。

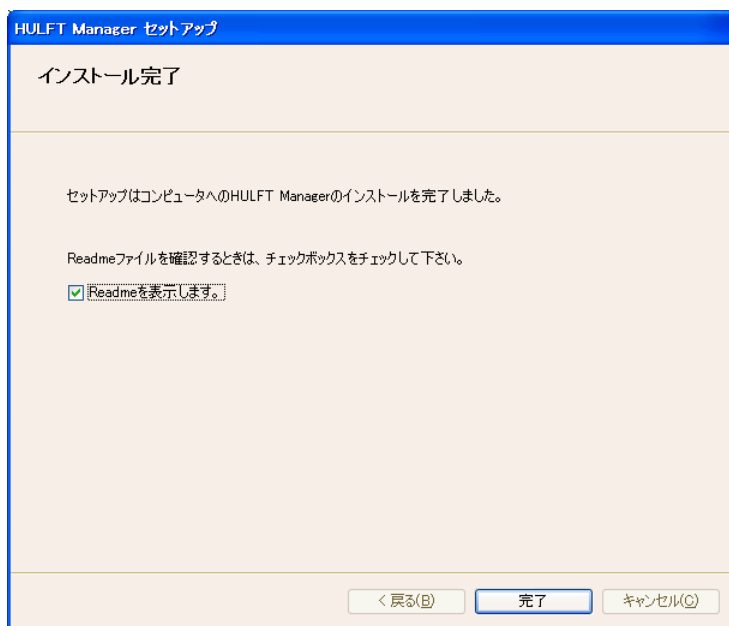


コンバート処理の完了を確認した後、「HULFT Manager コンバータ (V7)」画面で[閉じる]ボタンをクリックします。さらに、「コンバート」画面で[次へ]ボタンをクリックしてください。

【注意】コンバート処理を実行した場合は、新バージョンがインストールされた後、HULFT Manager を起動して、環境が引き継がれているかを確認してください。
詳細は、「9. 2. 2 (4) コンバート結果の確認」を参照してください。

(13) インストールの完了

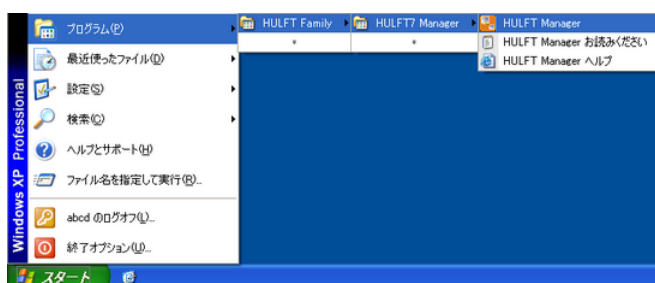
「インストール完了」画面が表示されます。Readme では、マニュアルには記載されていない情報について説明しています。このため必ず Readme の内容を確認してください。



[完了]ボタンをクリックすると、セットアッププログラムが終了します。

(14) ショートカットの作成

インストールが完了すると[スタート]－[すべてのプログラム]に HULFT Manager のショートカットが作成されます。



※ [すべてのプログラム]という表示名は、OS 種により表示名が異なります。

2.2 SQLite のインストール

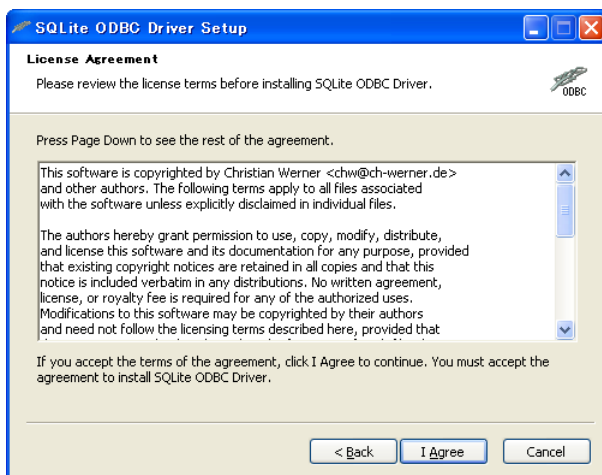
(1) インストーラの起動

SQLite の ODBC ドライバのインストーラが起動されると、次の画面が表示されます。
[Next] ボタンをクリックしてください。



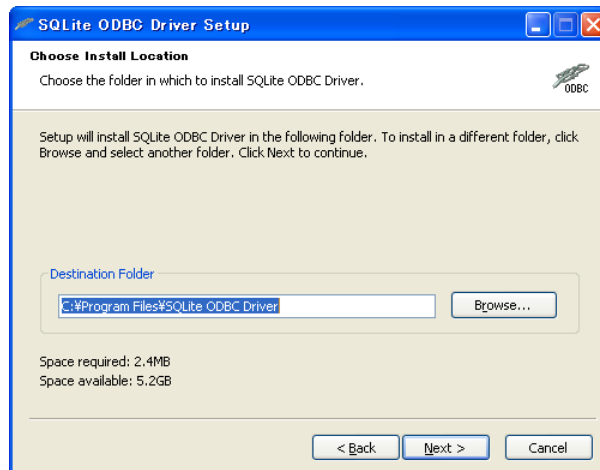
(2) 使用許諾契約の確認

SQLite の ODBC ドライバの使用許諾契約を確認する画面が表示されます。使用許諾契約の内容を確認してください。同意する場合は[I Agree]ボタンをクリックします。



(3) インストール先の選択

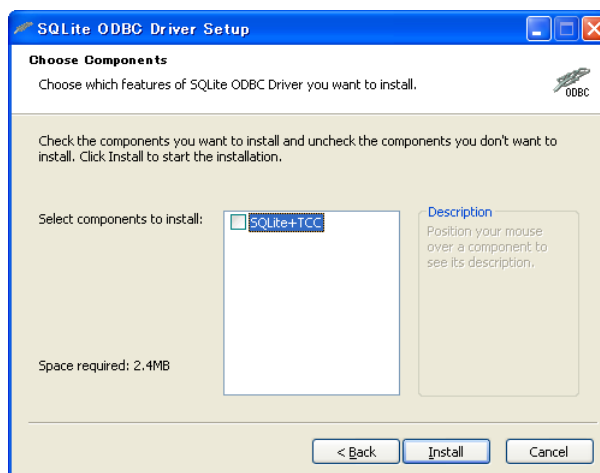
ODBC ドライバのインストール先フォルダを指定します。通常はデフォルト値のままでもかまいません。インストール先を変更する場合は、テキストボックスに直接入力するか、または[Browse]ボタンをクリックして目的のフォルダを選択してください。



インストール先の選択内容を確認した後、[Next]ボタンをクリックします。

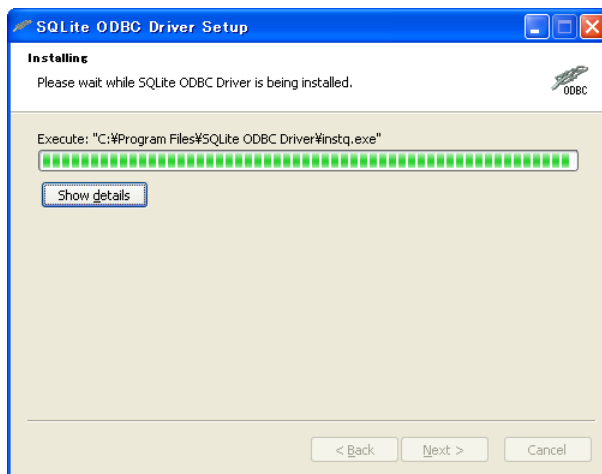
(4) コンポーネントの選択

インストールするコンポーネントを選択する画面が表示されます。ここでは何も選択せずに、[Install]ボタンをクリックしてください。



(5) インストール処理

インストール処理中は、以下の画面が表示されます。



(6) インストールの完了

インストール処理が終了すると、次の画面が表示されます。



[Finish]ボタンをクリックすると、SQLite の ODBC ドライバのインストールが完了します。

第3章

接続先 HULFT の設定

接続先のHULFTの設定方法について説明します。

3.1 登録手順

HULFT Manager を使用して各ホストに接続するには、接続先の HULFT の設定が必要です。接続先ホストや HULFT のバージョンによって設定する項目が若干異なることに注意してください。なお、各設定については接続先 HULFT を起動する前に行ってください。

3.1.1 HULFT Manager 接続オプションの導入

接続先ホストの HULFT に、HULFT Manager 接続オプションが導入されているか確認してください。HULFT Manager を使用する場合は、接続先ホストに HULFT Manager 接続オプションの導入が必須です。

【備考】「HULFT for Windows」「HULFT-SAN for Windows」「HULFT PPP Client Ver.5.0 以上」は、HULFT Manager 接続オプションが標準装備されているため、確認の必要はありません。そのほかの確認方法は、各機種の HULFT のマニュアルを参照してください。

3.1.2 詳細ホスト情報への登録

「HULFT for K」の Ver. 1.1.1 以下に接続する場合、接続先ホストの HULFT 詳細ホスト情報に、ローカルホスト名(HULFT Manager のインストールされているマシンのホスト名)と IP アドレスを登録してください。Ver. 1.1.2 以降では、登録の必要はありません。

その他の機種に接続する場合は、登録の必要はありません。

【注意】パスワード設定、管理画面セキュリティ機能を使用する場合は、接続先ホストの HULFT でパスワードチェック・ユーザの設定を行う必要があります。詳細については、各機種の HULFT のマニュアルを参照してください。

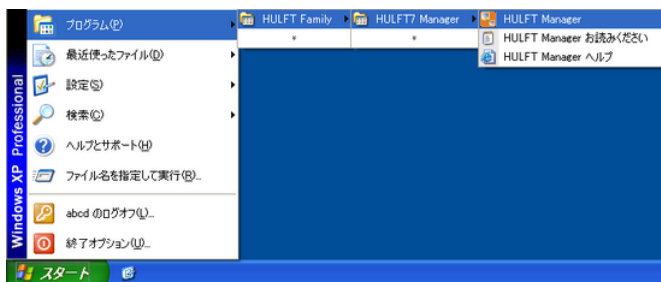
第4章

HULFT Manager の起動方法

HULFT Managerの起動方法について説明します。

4.1 HULFT Manager の起動手順

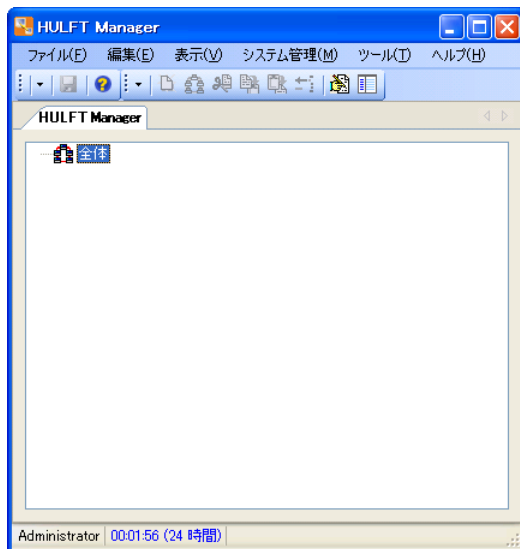
[スタート]メニューの[すべてのプログラム]から[HULFT Family]を選択し、[インストール時に設定した登録名]から[HULFT Manager]をクリックします。



ログインダイアログが表示されます。インストール時に登録した Administrator ユーザのユーザ ID とパスワードを入力して、[ログイン]ボタンをクリックしてください。



HULFT Manager が起動されると、HULFT Manager メイン画面が表示されます。



第5章

操作方法

この章では、HULFT Managerの基本の操作方法について説明します。

インストールを終えた後の疎通テストとして、この章の説明を参照しながら、起動からホストへ接続して終了するまでの一連の操作を実施してください。

5.1 HULFT Manager の起動

HULFT Manager を起動します。「4.1 HULFT Manager の起動手順」を参照してください。

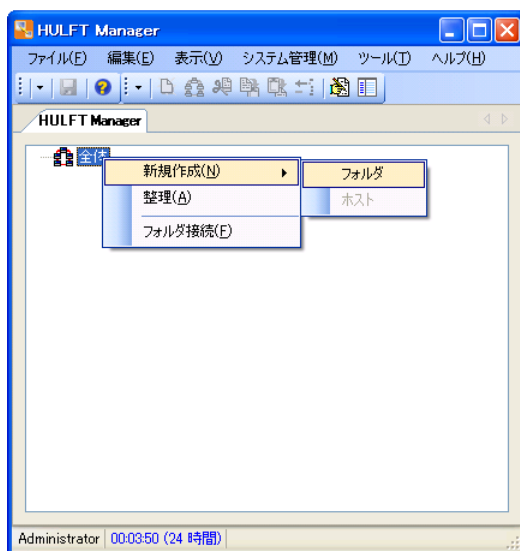
5.2 接続先ホストの登録

HULFT Manager メイン画面で、HULFT がインストールされているホストに接続するために必要な情報の設定、および登録を行います。

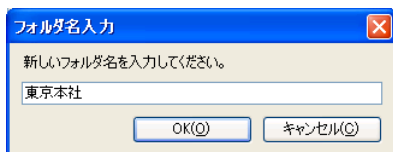
5.2.1 フォルダの作成

まず、接続先ホストの情報を管理するフォルダを作成します。

HULFT Manager メイン画面で、全体フォルダを選択してマウスの右ボタンをクリックすると、全体フォルダのコンテキストメニューが表示されます。コンテキストメニューから[新規作成]を選び[フォルダ]をクリックしてください。



[フォルダ名入力]ダイアログが表示されます。

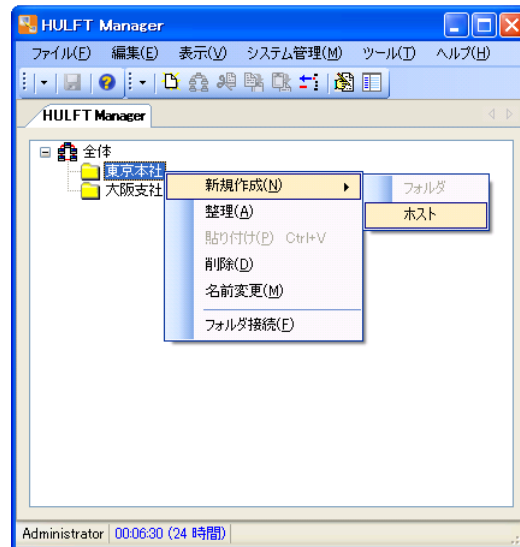


任意のフォルダ名を入力し、[OK]ボタンをクリックします。フォルダ名は 24 バイト以内で指定してください。全体フォルダに、新しく作成したフォルダが追加されます。

5.2.2 接続先ホスト情報の登録

LAN で接続されているホストの情報を登録します。

HULFT Manager メイン画面で、接続先ホストを登録するフォルダを選択してマウスの右ボタンをクリックすると、フォルダのコンテキストメニューが表示されます。コンテキストメニューから[新規作成]を選び[ホスト]をクリックしてください。



[管理ホスト情報]ダイアログが表示されます。

次に、各項目の設定内容を説明します。

ホスト名：

接続先ホストを識別するための任意の名前

接続手段：

接続先ホストへの接続手段

- ・ホスト名を使用して接続
- ・IPv4 アドレスを使用して接続
- ・IPv6 アドレスを使用して接続
- ・ホスト名を使用して接続 (IPv4)
- ・ホスト名を使用して接続 (IPv6)

ユーザの通知：

登録したホストへの操作を行う際に、HULFT Manager のログインユーザ情報を通知するかどうかの設定

IPv4 アドレス：

IPv4 アドレスを使用して接続する場合の接続先 IP アドレス

IPv6 アドレス：

IPv6 アドレスを使用して接続する場合の接続先 IP アドレス

要求受付ポート番号：

接続先ホストで起動している HULFT の要求受付ポート番号

コメント：

接続先ホストに対するコメント

検索最大件数：

各画面の一覧リストに表示させる最大レコード件数

リフレッシュ間隔：

各画面の表示内容を、最新情報に自動的に更新する場合の更新間隔

接続 ID：

一括配布や各ユーティリティプログラムを使用する場合に、接続先ホストを識別するための任意の名前

ユーザ名：

パスワードチェックを設定しているホストに対して一括配布や各ユーティリティプログラムを使用するときのユーザ名

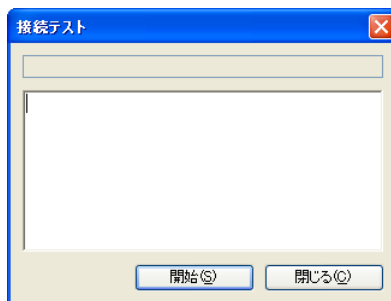
パスワード :

パスワードチェックを設定しているホストに対して一括配布や各ユーティリティプログラムを使用するときのパスワード

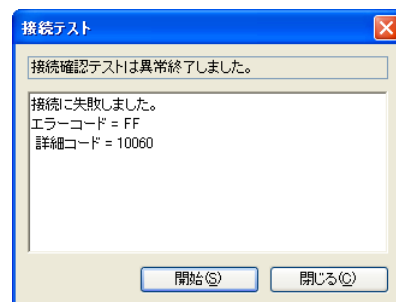
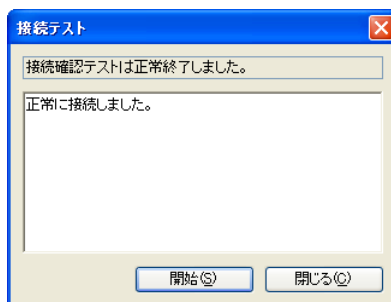
マッピング設定 :

HULFT Manager のユーザ ID と HULFT のユーザ ID との対応関係の設定

接続先ホストの情報を設定して[接続テスト]ボタンをクリックすると、[接続テスト]ダイアログが表示されます。さらに[開始]ボタンをクリックすると、接続テストが開始されます。



接続テストが正常に終了すると、以下の情報が表示されます。また、接続テストに失敗した場合は、以下のようなエラー情報が表示されます。



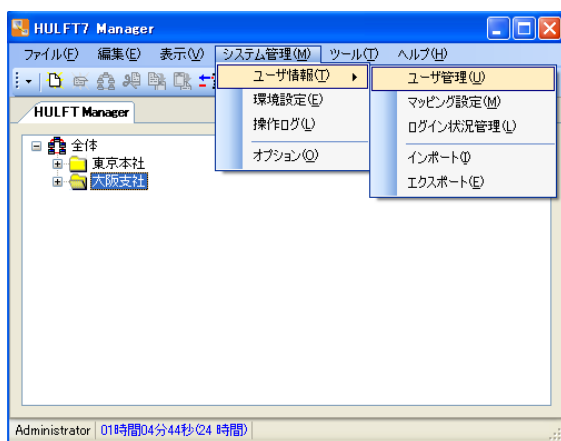
[閉じる]ボタンをクリックして[管理ホスト情報]ダイアログに戻り、[OK]ボタンをクリックしてください。設定した接続先ホスト情報が HULFT Manager に登録されます。

5.3 HULFT Manager 利用者の設定

HULFT7 Manager より、事前に登録された利用者しか Manager を起動することができなくなりました。ここでは、Manager を利用するためのユーザ情報の登録、Manager ユーザと HULFT ユーザとの関連付け(マッピング)について説明します。Administrator 以外の Manager 利用者が必要な場合、また接続先ホストに管理画面セキュリティの設定がある場合にはこちらを参照してください。

5.3.1 ユーザ情報の登録

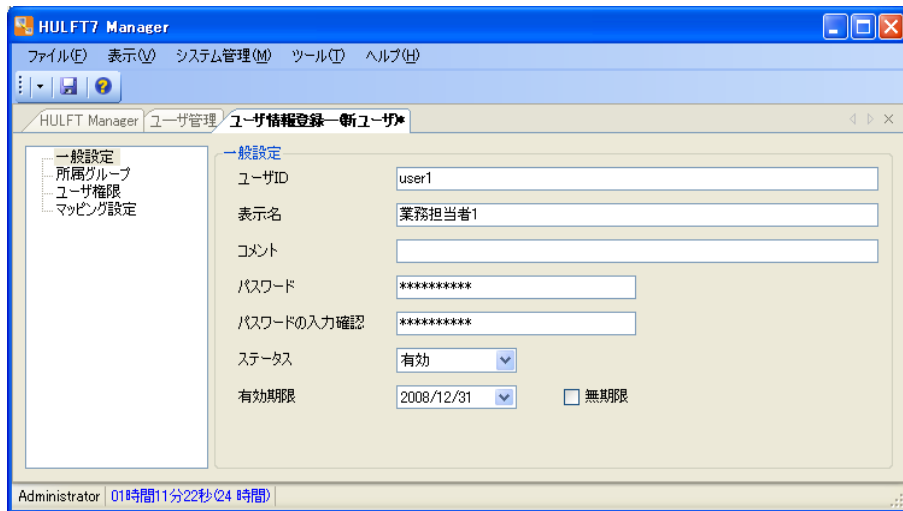
HULFT Manager メイン画面のメニューバーの[システム管理]から[ユーザ情報]を選び[ユーザ管理]をクリックしてください。



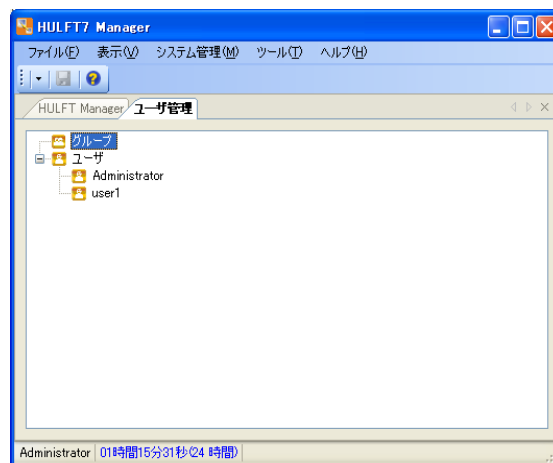
[ユーザ管理]画面が表示されます。ここではインストール時に設定した Administrator のみが表示されます。



画面中の“ユーザ”アイコンを右クリックし、[新規ユーザ]をクリックしますと Administrator 以外のユーザを登録することができます。ここでは例として“user1”を作成します。

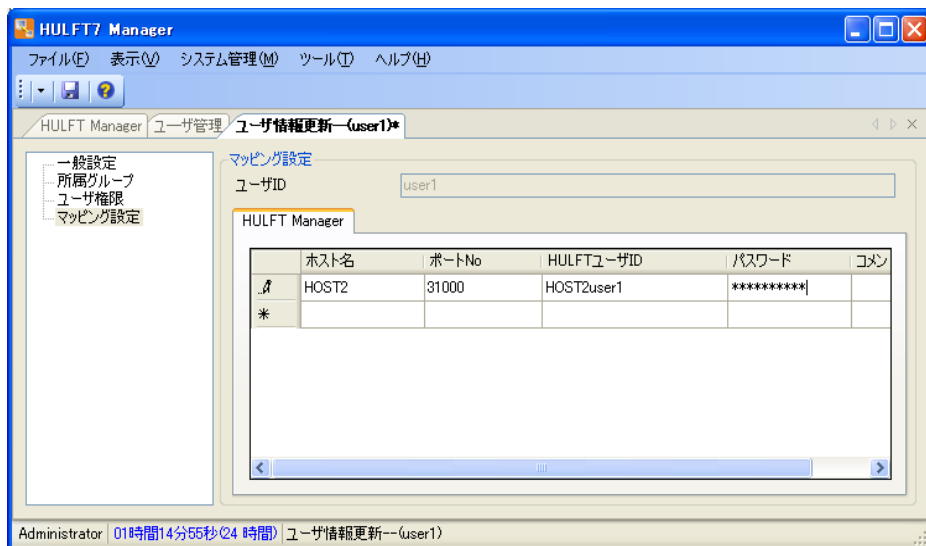


必要な情報を入力したあとに画面左上にある、保存ボタン(フロッピーディスクアイコンの形)にて保存してください。[ユーザ管理]画面には追加した“user1”がツリー状に表示されます。



5.3.2 マッピングの設定

新しく作成した“user1”をダブルクリックするとユーザ情報が表示されます。画面左に、一般設定、所属グループ、ユーザ権限、マッピング設定とリストがあります。マッピング設定をクリックしてください。ここでは Manager の“user1”と、“HOST2”という接続先ホスト(HULFT)に存在する ユーザ ID “HOST2user1”とを関連付け(マッピング)しています。



必要な情報を入力したあとに画面左上にある、保存ボタン(フロッピーディスクアイコンの形)にて保存してください。

【注意】管理画面セキュリティが設定されている HULFT に接続する場合はマッピング設定が必須になります。事前に全ての Manager 利用者の各 HULFT に対するユーザ ID やパスワードを収集してください。登録を誤りますと HULFT に接続できません。

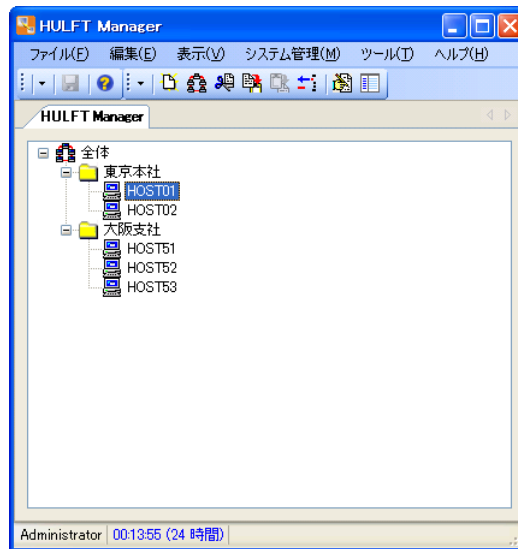
5.4 リモート接続

5.4.1 ホストへの接続

登録したホストに接続します。

(1) 接続したいホスト名の選択

HULFT Manager メイン画面で、接続したいホスト名をダブルクリックします。
接続形態や状況に応じて、相手ホストへの接続に時間がかかる場合があります。



【注意】 異常が発生した場合は以下のことを確認してください。

- ・ HULFT Manager から接続するホストの HULFT に、HULFT Manager 接続オプションがインストールされているか。
- ・ 接続先ホストの HULFT の要求受付プロセスが起動されているか。
- ・ 管理ホスト情報の登録で設定した IP アドレス、要求受付ポート番号が正しいか。
- ・ TCP/IP の設定が正しいか。

【備考】 接続先ホストの HULFT で管理画面セキュリティ、パスワードチェックのためのユーザ設定を行っている場合は、[管理ホスト情報]ダイアログの[マッピング設定]ボタンをクリックし、HULFT Manager のユーザ ID と HULFT のユーザ ID との対応を設定してください。

管理ホスト情報-新規作成

ホスト名: HOST01

接続手段: ホスト名を使用して接続(IPv4) ユーザの通知: しない

IPv4アドレス: 要求受付ポート番号: 31000

IPv6アドレス: 接続テスト

コメント:

検索最大件数: 100 件 リフレッシュ間隔: 0 分

接続情報

接続ID: ID01

ユーザ名: パスワード:

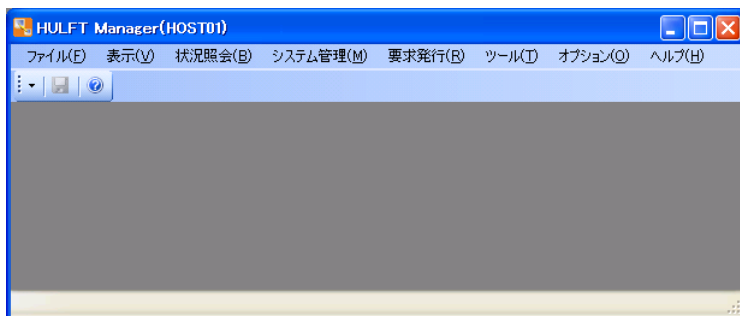
マッピング設定

	Manager ユーザID	HULFT ユーザ名	パスワード	コメント
▶1	Administrator	user01	*****	
*				

OK(C) キャンセル(C) 適用

(2) 接続先ホスト画面の表示

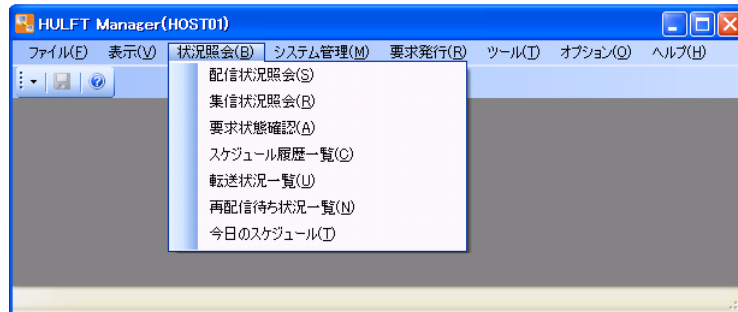
正常に接続された場合、以下のような接続先ホスト画面が表示されます。



(3) 履歴情報の参照、削除

接続先ホスト画面の[状況照会]メニューを選択します。

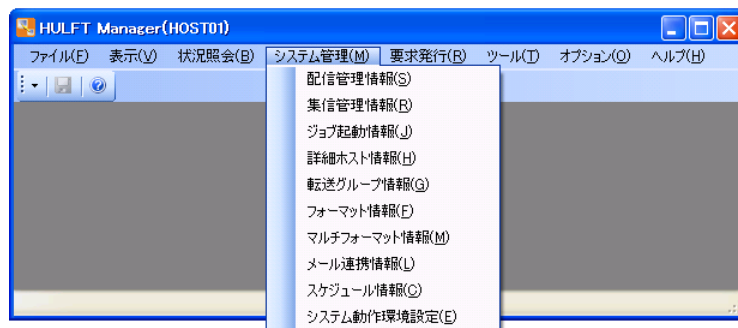
[状況照会]メニューでは、集配信履歴、要求受付履歴、転送状況一覧、再配信待ち状況一覧などの参照および削除を行うことができます。



(4) 管理情報の登録、更新、削除

接続先ホスト画面の[システム管理]メニューを選択します。

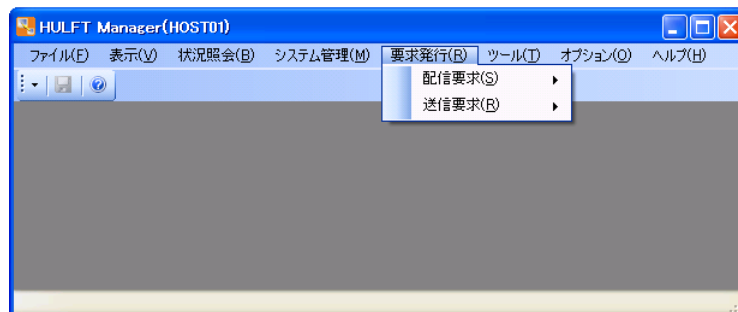
[システム管理]メニューでは、配信管理情報、集信管理情報、ジョブ起動情報、詳細ホスト情報、転送グループ情報、フォーマット情報、マルチフォーマット情報などの登録、更新、および削除を行うことができます。



(5) 要求発行

接続先ホスト画面の[要求発行]メニューを選択します。

[要求発行]メニューから、配信要求、再配信要求、送信要求、再送要求を発行できます。

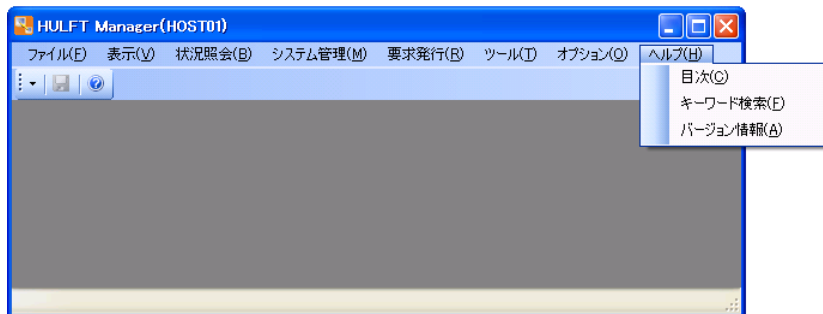


HULFT Manager

(6) ヘルプ

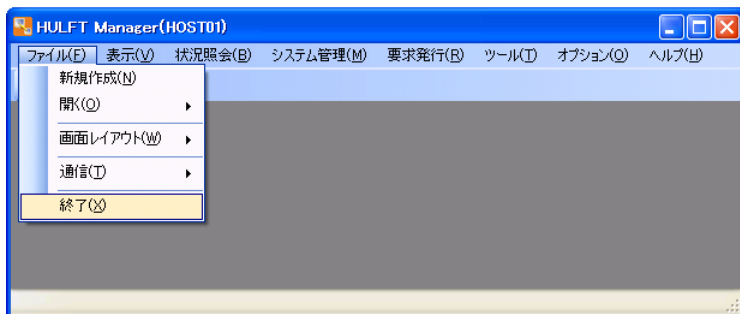
接続先ホスト画面の[ヘルプ]メニューを選択します。

[ヘルプ]メニューから、HULFT Manager のオンラインヘルプやバージョン情報を参照できます。



5. 4. 2 ホストへの接続の終了

接続先ホスト画面の[ファイル]メニューから[終了]をクリックします。



接続しているホストとの通信が切断され、接続先ホスト画面が終了します。

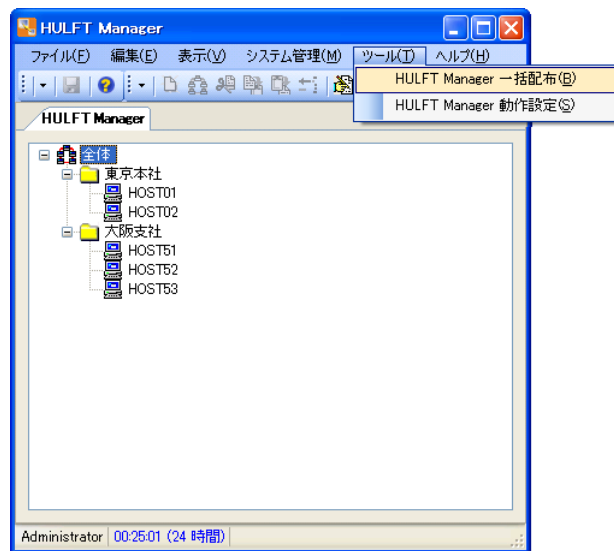
5.5 一括配布機能

HULFT Manager の一括配布機能を使用すると、遠隔地から複数の同機種のホストに対して、システム管理情報を同時に取得および配布することができます。

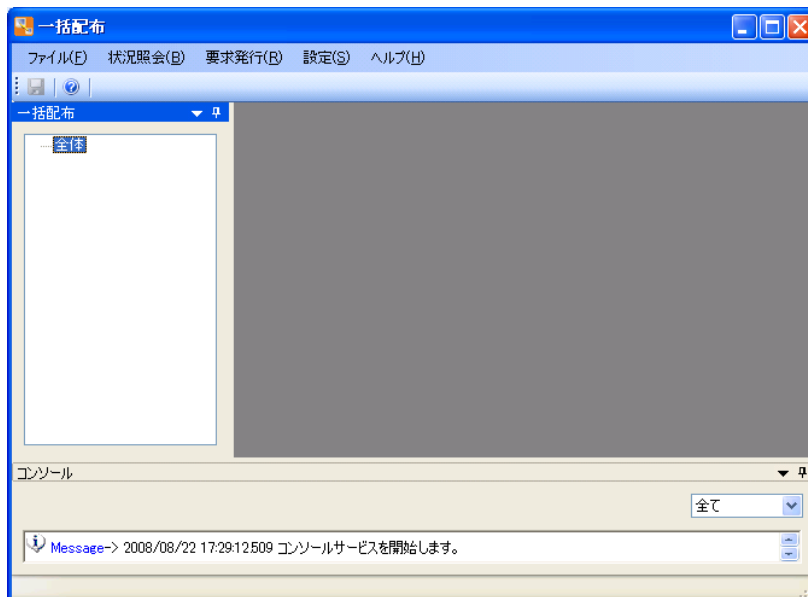
詳細な機能や操作方法については、HULFT Manager のオンラインヘルプを参照してください。

5.5.1 一括配布機能の起動

HULFT Manager メイン画面の[ツール]メニューから[HULFT Manager 一括配布]をクリックします。



以下のような一括配布画面が表示されます。



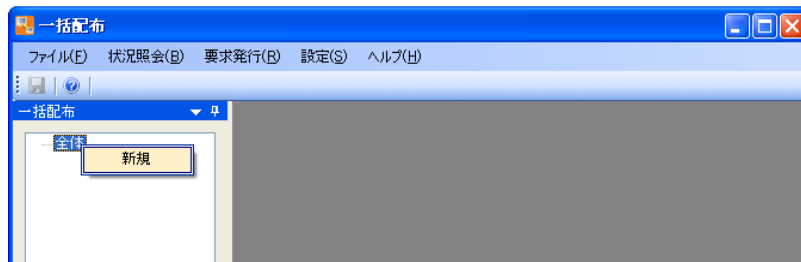
5.5.2 配布先グループの設定

一括配布や取得処理を行うために必要な情報の設定、登録を行います。取得用と配布用のグループ ID を設定します。

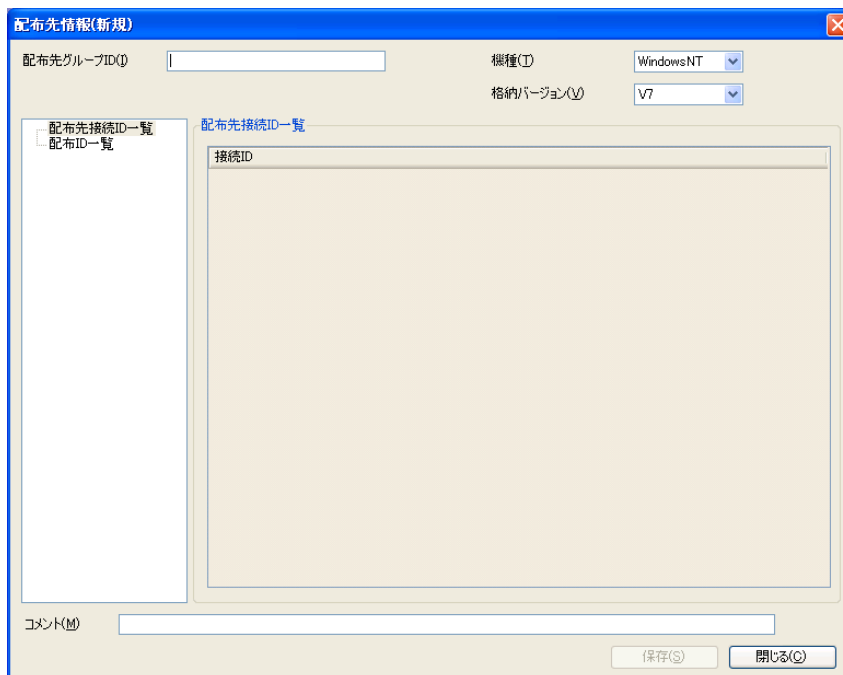
(1) 新規作成

取得用の配布先グループ ID を設定します。

一括配布ツリーの[全体]をマウスの右ボタンをクリックし、表示されたコンテキストメニューから[新規]を選びます。



以下のような[配布先情報(新規)]ダイアログが表示されます。



次に、各項目の設定内容を説明します。

配布先グループ ID :

配布先グループを識別するための任意の名前を設定

機種 :

配布先ホストの機種を選択

格納バージョン :

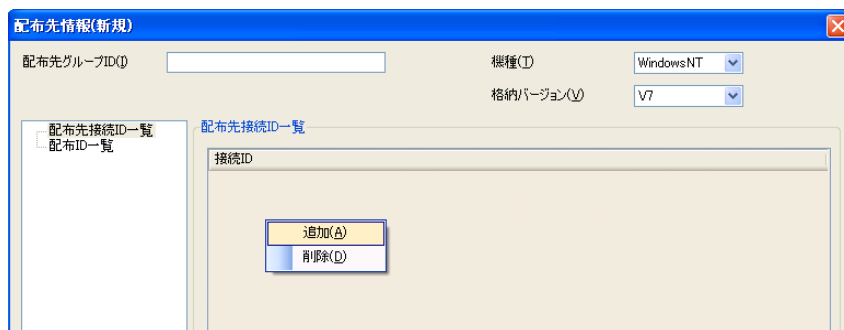
配布情報の格納バージョンを選択

コメント :

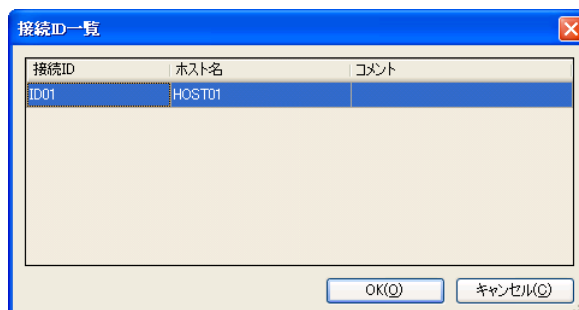
配布先グループ ID に対するコメント (省略可)
60 バイト以内で指定します。

(2) 接続 ID の設定

[配布先情報] ダイアログで [配布先接続 ID 一覧] を選択します。さらに、「配布先接続 ID 一覧」の領域でマウスの右ボタンをクリックし、表示されたコンテキストメニューから [追加] を選びます。



以下のような [接続 ID 一覧] ダイアログが表示されます。接続 ID を選択して [OK] ボタンをクリックしてください。



【注意】接続 ID は、HULFT Manager メイン画面で、接続先ホストの情報に設定されている必要があります。ホストのコンテキストメニューから[管理ホスト情報]ダイアログを表示し、設定内容を確認してください。

(3) 配布 ID の設定

[配布先情報]ダイアログで[配布 ID 一覧]を選択します。「配布先接続 ID 一覧」から配布する ID の各情報を選び、[リストへ追加]ボタンをクリックしてください。

配布先情報(新規)

配布先グループID(I) GET 機種(I) WindowsNT 格納バージョン(V) V7

配布先接続ID一覧
配布ID一覧

情報種別	処理区分	対象区分	ID
配信	更新	すべて	
集信	更新	すべて	
ジョブ	更新	すべて	
詳細ホスト	更新	すべて	
転送グループ	更新	すべて	
フォーマット	更新	すべて	
マルチフォーマット	更新	すべて	
メール	更新	すべて	
スケジュール	更新	すべて	
システム動作	更新	すべて	

情報種別
 配信管理情報
 集信管理情報
 ジョブ起動情報
 詳細ホスト情報
 転送グループ情報
 フォーマット情報
 マルチフォーマット情報
 メール連携情報
 スケジュール情報
 システム動作情報

処理区分 更新

対象区分
☒ すべて ☐ ID

参照(F)

リストへ追加(I)

リストから削除(Q)

コメント(M)

保存(S) 閉じる(C)

次に、各項目の設定内容を説明します。

情報種別：

配布する管理情報を選択

処理区分：

管理情報 ID への処理区分

- ・更新 : 更新または、新規登録
- ・削除 : 削除

対象区分：

情報区分で指定された管理情報対象

- ・すべて : 登録されているすべての管理情報 ID に配布
- ・ID : 任意の ID に配布
- ・ID の入力ボックス : 情報区分で選択した管理情報に登録されている ID

コメント：

配布先グループ ID に対するコメント(省略可)
60 バイト以内で指定します。

(4) 設定の保存

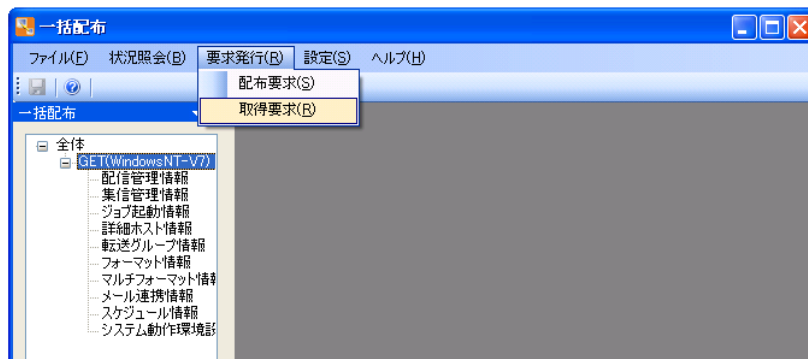
[配布先情報]ダイアログで、配布先グループ ID、機種、格納バージョン、配布先接続 ID、および配布 ID を設定した後、[保存]ボタンをクリックしてください。HULFT Manager に配布先グループの設定が保存されます。

続けて(1)から(4)の操作を繰り返し、配布用の配布先グループ ID を設定します

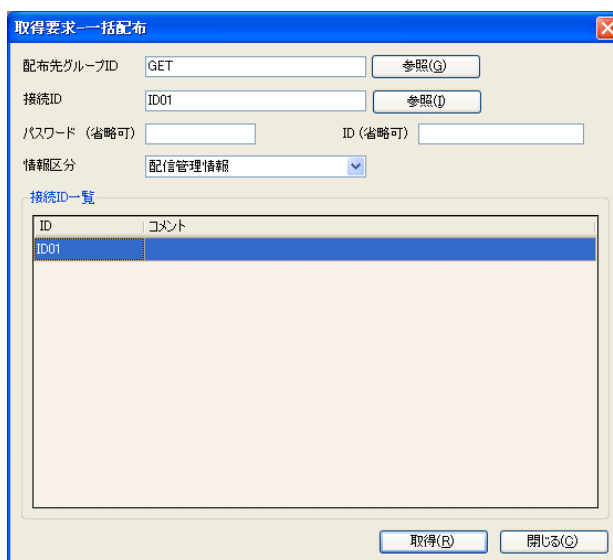
5.5.3 管理情報の取得

一括配布するための管理情報を取得します。管理情報を手動で作成またはコピーする場合は、「5.4.4 管理情報の追加・更新・削除」の説明に進んでください。

一括配布画面の[要求発行]メニューから[取得要求]をクリックします。



[取得要求]ダイアログが表示されます。必要な項目を設定し[取得]ボタンをクリックすると、管理情報の取得が実行されます。



次に、各項目の設定内容を説明します。

配布先グループ ID :

取得したい情報を格納した配布先グループ ID

接続 ID(省略可) :

取得したい情報を所有しているホストの接続 ID

パスワード(省略可) :

一括配布機能にパスワードを指定している場合に指定

ID(省略可) :

取得したい情報の ID

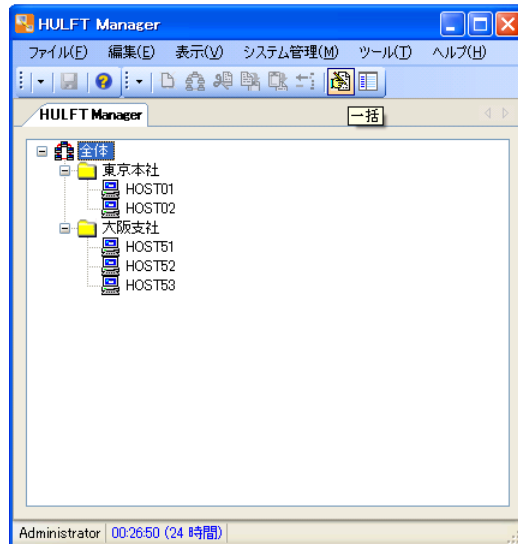
情報区分 :

取得したい情報の区分

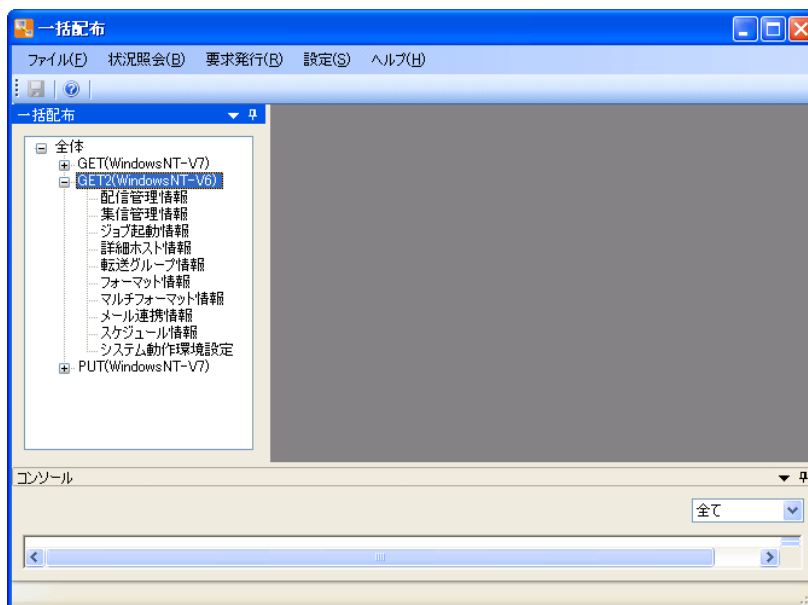
5.5.4 管理情報の追加・更新・削除

一括配布する管理情報について、追加、更新、削除を行う場合の操作を説明します。管理情報の編集は、配布先グループ ID ごとに行います。

HULFT Manager メイン画面で、ツールバーの[一括]ボタンをクリックします。



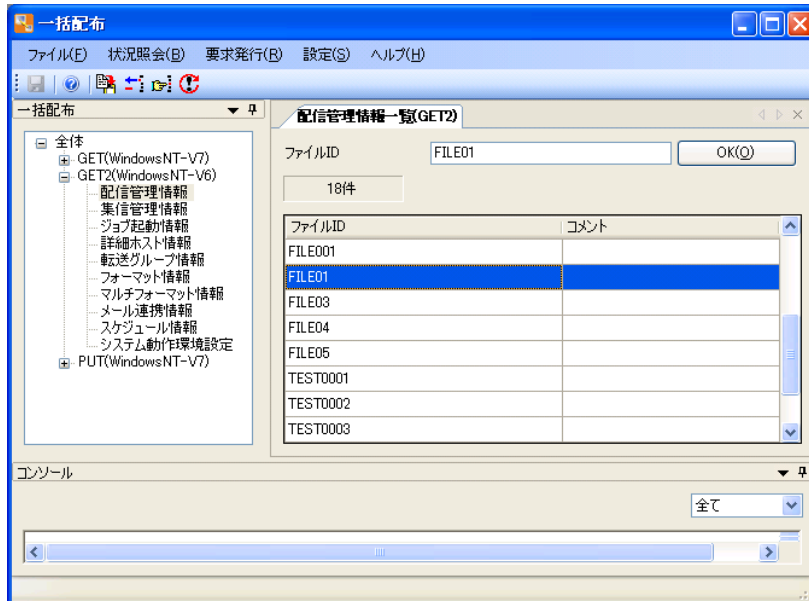
一括配布画面が表示されます。一括配布ツリーから、管理情報の追加、更新、削除を行う配布先グループ ID を選択してください。システム管理情報の種類がツリーに表示されます。



ここから、配信管理情報、集信管理情報、ジョブ起動情報、詳細ホスト情報、転送グループ情報、フォーマット情報、マルチフォーマット情報などの追加、更新、削除を行うことができます。

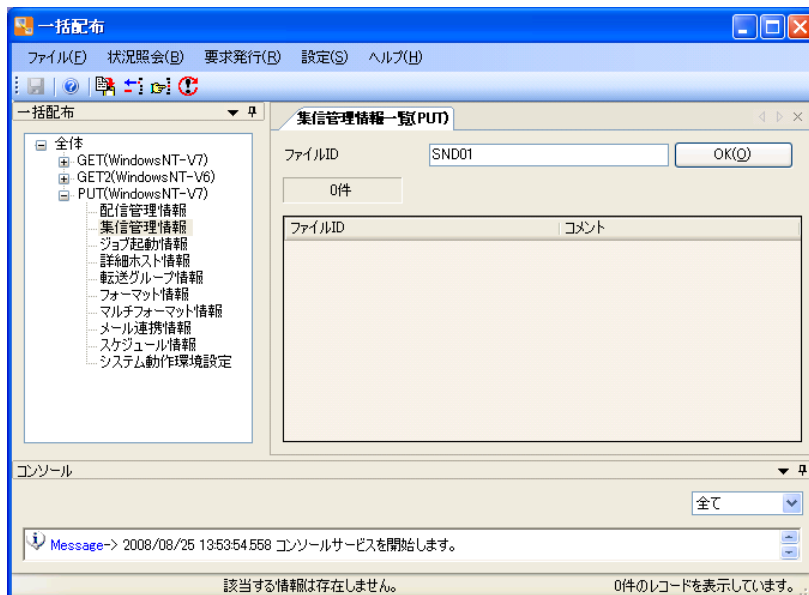
次に、配信管理情報を更新する場合の例を示します。

一括配布ツリーから、編集したい配布先グループ ID を選択して「配信管理情報」をダブルクリックすると配信管理情報の一覧画面が表示されます。さらに、一覧画面から更新したいファイル ID を選び、設定内容を更新します。更新した設定内容は、ツールバーの[保存]ボタンをクリックして保存します。

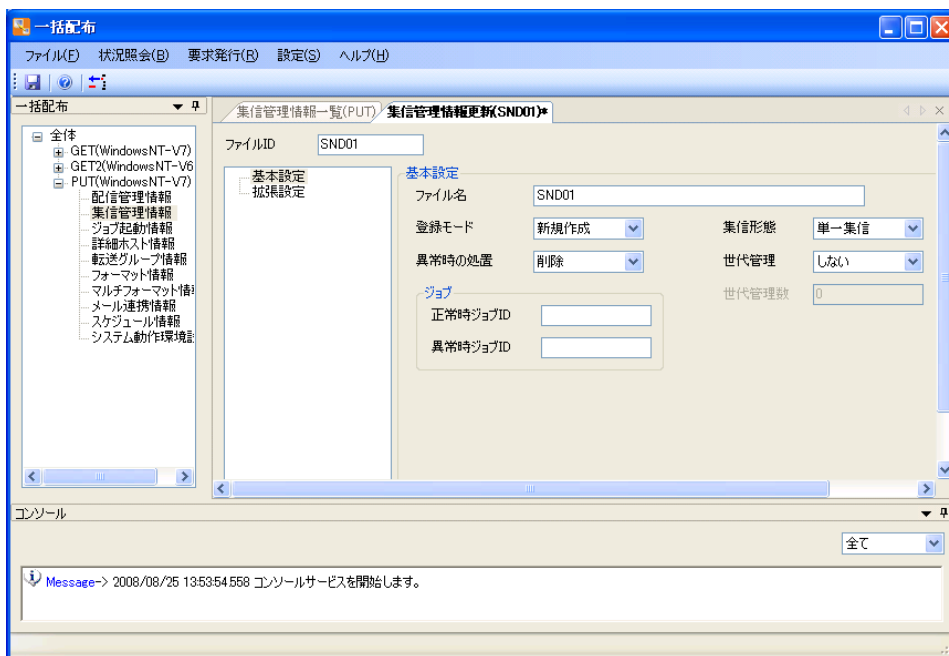


次に、集信管理情報を新規に追加する場合の例を示します。

一括配布ツリーから、編集したい配布先グループ ID を選択して「集信管理情報」をダブルクリックします。



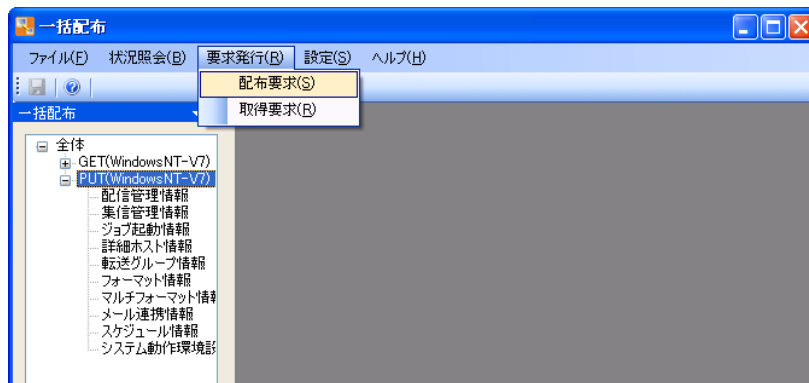
新規に追加する集信管理情報のファイル ID を入力した後、設定内容を入力します。入力した設定内容は、ツールバーの[保存]ボタンをクリックして保存してください。



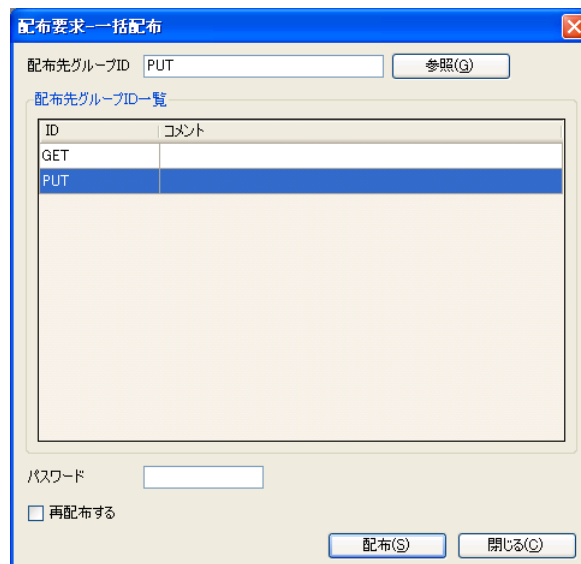
5.5.5 管理情報の一括配布

管理情報を一括配布します。

一括配布画面の[要求発行]メニューから[配布要求]をクリックします。



[配布要求]ダイアログが表示されます。必要な項目を設定し[配布]ボタンをクリックすると、管理情報の一括配布が実行されます。



次に、各項目の設定内容を説明します。

配布先グループ ID :

配布したい情報を格納した配布先グループ ID

パスワード :

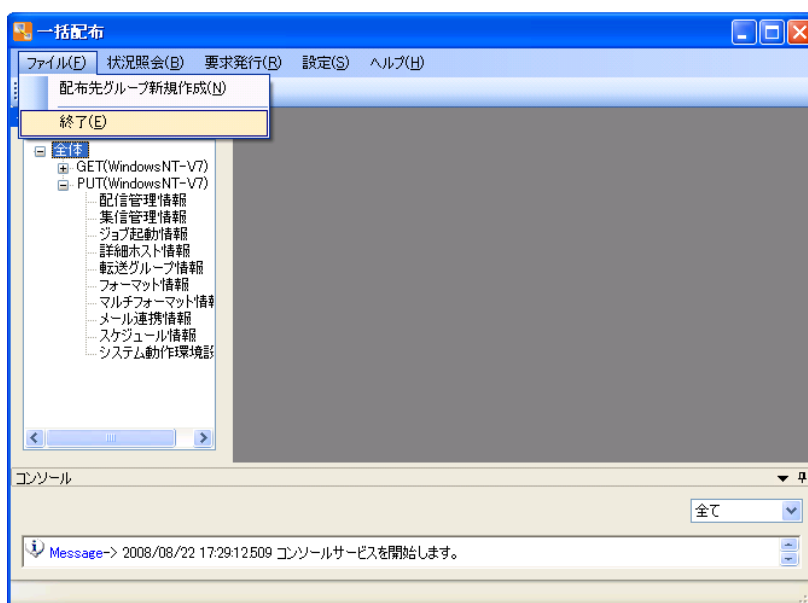
一括配布機能にパスワードを指定している場合に指定

再配布する :

再配布したい場合に指定

5.5.6 一括配布画面の終了

一括配布画面の[ファイル]メニューから[終了]をクリックします。



一括配布画面が閉じ、一括配布機能が終了します。

5.6 HULFT Manager の終了

HULFT Manager を終了します。「6.1 HULFT Manager の終了手順」を参照してください。

第6章

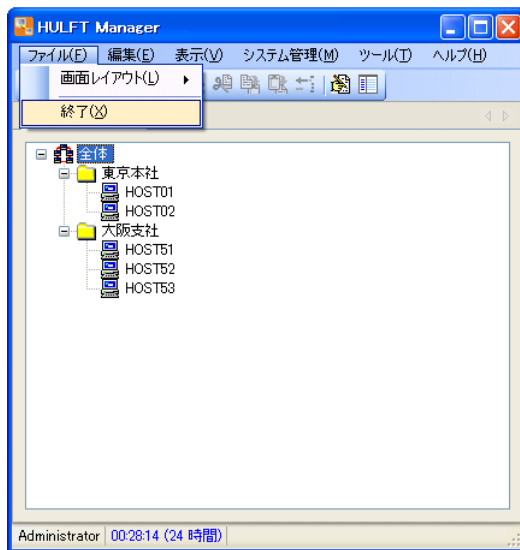
HULFT Manager の終了方法

HULFT Managerの終了方法について説明します。

6.1 HULFT Manager の終了手順

HULFT Manager メイン画面の[ファイル]メニューから[終了]をクリックします。

【備考】接続先ホストの画面が表示されている場合、HULFT Manager を終了することはできません。接続先ホスト画面の[ファイル]メニューから[終了]をクリックし、接続先ホスト画面を終了してください。



HULFT Manager メイン画面が閉じ、HULFT Manager が終了します。

【注意】ユーザがログインしてから、「連続ログイン時間制限」で設定した連続ログイン時間を超えると強制ログアウトされ、ログイン画面に戻ります。連続ログイン時間とは、ユーザがログインしている状態でシステムを続けて利用できる時間のことです。初期値として「24」が設定されています(単位：時間)。詳細については、HULFT Manager のオンラインヘルプを参照してください。

第7章

バックアップ方法

HULFT Managerの環境をバックアップする方法について説明します。

7.1 バックアップ手順

HULFT Manager の環境をバックアップするための手順を説明します。

バックアップの操作は HULFT Manager をインストールしたユーザ、またはシステム管理者が行うことをお勧めします。

- (1) HULFT Manager がインストールされているフォルダへ移動します。
- (2) HULFT Manager の環境であることを確認します。
- (3) バックアップを作成します。

HULFT Manager のバージョンに応じて、バックアップ対象のファイルが異なります。

■ HULFT Manager Ver. 7 未満の環境をバックアップする場合

HULFT Manager インストール先フォルダ直下にある次のファイルを、任意のフォルダにコピーしてください。

- hulman.dat
- hulman.ini
- hulman.tre (Ver. 5.0 以上)
- rhst フォルダ、および rhst フォルダ内の RHST*.ini (Ver. 5.0 以上)
- dtb フォルダ、および dtb フォルダ内のすべてのファイル (一括配布機能使用時 : Ver. 5.1 以上)
- hmppp.dat (PPP 接続時 : Ver. 5.1 以上)

■ HULFT Manager Ver. 7 の環境をバックアップする場合

HULFT Manager インストール先フォルダ直下にある次のフォルダを、任意のフォルダにコピーしてください。

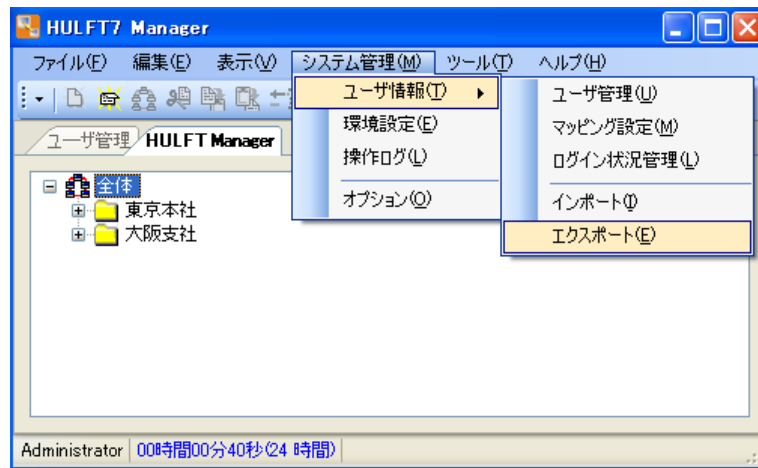
- etc
- opl
- output

さらに、「HULFT Manager インストール先フォルダ¥Plugins¥Hulft_Plugin」下にある次のファイルおよびフォルダを、任意のフォルダにコピーしてください。

- hulman.dat
- hulman.ini
- hulman.tre
- plugin.xml
- Setup.xml
- dtb フォルダ、および dtb フォルダ内のすべてのファイル (一括配布機能使用時)

■ HULFT Manager Ver.7にてユーザ情報をバックアップする場合

HULFT7 Manager からはユーザ情報をバックアップし、アップグレードインストール後にデータをロードすれば同じユーザ情報を使用することができます。HULFT Manager メイン画面の[システム管理]メニューから[ユーザ情報]の[エクスポート]を選択して下さい。



バックアップファイルに名前を付けて保存して下さい。ファイルは XML 形式にて出力され、ユーザのパスワードは暗号化されます。

(4) バックアップが作成されたことを確認します。

バックアップ対象のファイルとフォルダがすべてコピーされたことを確認してください。

以上でバックアップ作業は終了です。

~~~~~X~~~~~

## 第8章

# テスト版から正式版への移行方法

HULFT Manager Ver. 7のテスト版を、環境を引き継ぎながら正式版に移行する方法について説明します。

### 8.1 移行の準備

テスト版から正式版に移行する前の準備作業について説明します。

【注意】テスト版と正式版は同じバージョン、レベル、リビジョンでなければ移行できません。

#### (1) テスト版 HULFT Manager の終了

移行作業を始める前に、必ず HULFT Manager を終了しておいてください。HULFT Manager が動作している状態では、正常に移行できない場合があります。

終了方法については、「6.1 HULFT Manager の終了手順」を参照してください。

#### (2) テスト版データのバックアップ

テスト版データのバックアップを作成してください。バックアップの方法については、「7.1 バックアップ手順」を参照してください。

### 8.2 移行作業の手順

テスト版から正式版に移行する手順について説明します。ここで説明する手順に従って作業すると、テスト版の使用期間中に作成した各管理情報を、正式版に引き継いで利用することができます。

#### (1) テスト版 HULFT Manager のアンインストール

「11.1.2 HULFT Manager のアンインストール」を参照し、テスト版の HULFT Manager をアンインストールしてください。

#### (2) 正式版 HULFT Manager のインストール

「2.1 HULFT Manager のインストール手順」を参照し、正式版の HULFT Manager をインストールしてください。

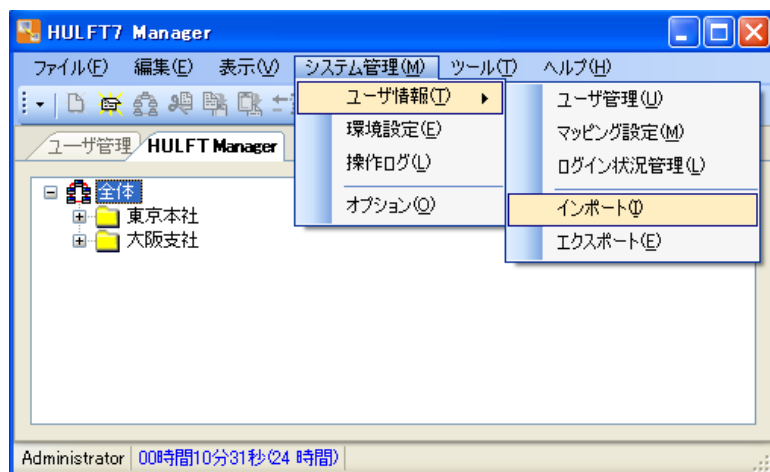
#### (3) データのバックアップの復元

バックアップしたフォルダとファイルを、正式版の HULFT Manager のインストール時に指定したフォルダに戻してください。



#### (4) ユーザ情報の復元

「7.1 バックアップ手順」(3)にて、ユーザ情報をバックアップした場合にはデータをロードしてユーザ情報を復元します。HULFT Manager メイン画面の[システム管理]メニューから[ユーザ情報]の[インポート]を選択して下さい。



インポート対象のファイルを選択し、[開く]ボタンを押すとファイルのインポートが開始されます。インポートが完了するとユーザ情報がユーザ管理ツリーに表示されます。詳細はオンラインヘルプを参照願います。

以上で移行作業は終了です。



## 第9章

# バージョンアップ方法

HULFT Managerを下位バージョンからVer. 7にバージョンアップする方法について説明します。

### 9.1 バージョンアップの準備

HULFT Manager のバージョンアップの準備を始める前に、あらかじめ「HULFT7 新機能・非互換説明書」をお読みください。続いて、次の手順に従い、バージョンアップの準備作業を行ってください。

#### (1) HULFT Manager の終了

バージョンアップ作業前に、必ず HULFT Manager を終了しておいてください。HULFT Manager が動作している状態では、正常にバージョンアップできない場合があります。

終了方法については、「6.1 HULFT Manager の終了手順」を参照してください。

#### (2) HULFT Manager のデータのバックアップ

バージョンアップ作業前に、必ず HULFT Manager のデータのバックアップを作成してください。バックアップの方法については、「7.1 バックアップ手順」を参照してください。

#### (3) 移行元の HULFT Manager のバージョン確認

移行元のバージョン(現在使用している HULFT Manager のバージョン・リビジョン・レベル)を確認しておいてください。移行元の HULFT Manager のバージョンに応じ、環境を引き継ぐために実行するコンバート処理の設定が異なります。

### 9.2 バージョンアップの手順

バージョンアップの準備を終えた後、次の手順に従ってバージョンアップの作業を実施してください。

#### 9.2.1 新バージョンのインストール

「2.1 HULFT Manager のインストール手順」を参照し、新バージョンの HULFT Manager をインストールしてください。

インストールの際、インストールタイプに「更新インストール」を選択すると、移行元バージョンの設定に応じて環境がコンバートされ、新バージョンの HULFT Manager に引き継がれます。なお、必要に応じて、コンバート処理のみを実行することもできます。

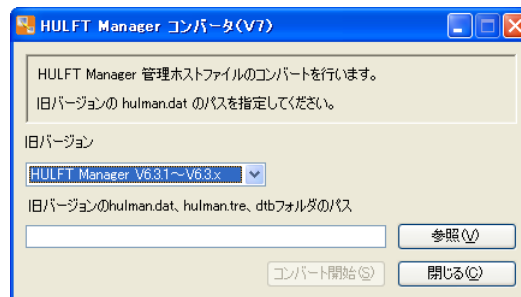
コンバート処理の詳細については、「9.2.2 情報ファイルのコンバート」を参照してください。

## 9.2.2 情報ファイルのコンバート

コンバート処理を実行する場合の操作方法について説明します。新バージョンのインストールで「更新インストール」を選択してコンバート処理を実行する場合、手動での起動は必要ありません。

### (1) コンバータの起動

エクスプローラ、またはコマンドプロンプトから、コンバータ「HmConvert.exe」を起動します。コンバータは、「HULFT Manager のインストール先フォルダ¥Plugins¥Hulft\_Plugin」に格納されています。コンバータを起動すると、次の画面が表示されます。



### (2) コンバート処理の設定

「旧バージョン」のリストから、移行元となる HULFT Manager のバージョンを選択してください。

- ・ HULFT Manager Ver. 1、Ver. 2 からの移行  
移動元となる旧バージョンに「HULFT Manager V1、V2」を指定します。
- ・ HULFT Manager Ver. 5.0 からの移行  
移動元となる旧バージョンに「HULFT Manager V5.0」を指定します。
- ・ HULFT Manager Ver. 5.1、Ver. 5.2 からの移行  
移動元となる旧バージョンに「HULFT Manager V5.1、V5.2」を指定します。
- ・ HULFT Manager Ver. 6.0、Ver. 6.1、Ver. 6.2 からの移行  
移動元となる旧バージョンに「HULFT Manager V6.0、V6.1、V6.2」を指定します。
- ・ HULFT Manager Ver. 6.3.0 からの移行  
移動元となる旧バージョンに「HULFT Manager V6.3.0」を指定します。
- ・ HULFT Manager Ver. 6.3.1、Ver. 6.3.2、Ver. 6.3.3、Ver. 6.3.4、Ver. 6.3.5、Ver. 6.3.6、Ver. 6.3.7 からの移行  
移動元となる旧バージョンに「HULFT Manager V6.3.1~V6.3.x」を指定します。

さらに、「旧バージョンの hulman.dat、hulman.ini、hulman.tre、dtb フォルダのパス」に、バックアップデータが格納されているフォルダを指定します。テキストボックスに直接入力するか、または、[参照]ボタンをクリックして目的のフォルダを選択してください。

**【注意】**「旧バージョン」を誤って指定した場合、正常にコンバート処理が実行されません。

### (3) コンバート処理の実行

画面の設定内容を確認した後、[コンバート開始]ボタンをクリックしてください。コンバート処理の開始を確認するダイアログが表示されます。[はい]ボタンをクリックすると、コンバート処理が実行されます。

コンバート処理が終了すると、終了メッセージが表示されます。コンバータ画面で[閉じる]ボタンをクリックしてコンバータを終了してください。

### (4) コンバート結果の確認

コンバートされたファイル(hulman.dat)は、新バージョンの HULFT Manager のインストール先フォルダに作成されます。

HULFT Manager を起動し、HULFT Manager メイン画面を使用して、移行元のバージョンで登録していた接続先ホストの情報が正しく引き継がれているか確認してください。

#### ■ 移行元のバージョンにフォルダが存在しない場合

移行元のバージョンでフォルダが存在しない場合は、次の規則に基づいて NewFolder という名前のフォルダが新規作成されます。

- フォルダ項目に指定がないとき「NewFolder」という名前のフォルダが新規作成されます。
- フォルダ項目に指定はないが、フォルダ情報ファイルの中に NewFolder が存在するとき、「NewFolder2」という名前のフォルダが新規作成されます。以下フォルダ名が既存すればそれに対応して NewFolder2、NewFolder3…と番号が大きくなり、最大で NewFolder99 まで作成されます。
- フォルダ項目に指定はないが、フォルダ情報ファイルの中にすでに NewFolder および NewFolder2～NewFolder99 がすべて存在するとき、フォルダは新規作成されず、エラーとなります。

## 9.2.3 旧バージョンのアンインストール

「11.1.2 HULFT Manager のアンインストール」を参照し、旧バージョンの HULFT Manager をアンインストールしてください。

## 9.2.4 HULFT Manager 利用者の登録

Administrator 以外のユーザでの利用をお考えの場合、「5.3 Manager 利用者の設定」を行ってください。

## 9.2.5 バージョンアップ作業後の確認

正しくバージョンアップ作業が行われたか、HULFT Manager を起動してバージョン情報を表示し、新バージョンに更新されていることを確認してください。バージョン情報は、HULFT Manager メイン画面の[ヘルプ]メニューから[バージョン情報]をクリックすると表示されます。

以上でバージョンアップ作業は終了です。

## 第10章

# リビジョンアップ方法

本章では「HULFT Manager」のリビジョンアップについて説明します。

## HULFT Manager

本章は「HULFT7 Manager」をリビジョンアップする際の手順を説明したものです。Ver. 5 以前のバージョンからのバージョンアップを行う場合は、「第 9 章 バージョンアップ方法」を参照してください。

リビジョンアップを行う上での注意事項は下記のとおりです。

- HULFT Manager を終了して作業を行ってください。
- 作業前に必ず HULFT Manager のバックアップを作成してください。

また、当作業を行う前には、予め「リビジョンアップ詳細情報」等をお読みください。

## 10.1 リビジョンアップ前作業

### 10.1.1 HULFT Manager の終了

リビジョンアップを行っている間は、HULFT Managerは終了してください。

終了方法は、「第6章 HULFT Managerの終了方法」を参照してください。

HULFT Manager が動作している状態では、正常にリビジョンアップできない場合があります。

### 10.1.2 HULFT Manager データのバックアップ

HULFT Manager データのバックアップを作成してください。

バックアップの方法は、「第7章 バックアップ方法」を参照してください。



## 10.2 リビジョンアップ作業

リビジョンアップの方法は、以下の手順となります。作業手順に従って、リビジョンアップ作業を行ってください。

### 10.2.1 新リビジョンの HULFT Manager インストール

「第2章 インストール方法」を参照して、新リビジョンの HULFT Manager をインストールしてください。

### 10.2.2 作業後の確認

正しくリビジョンアップ作業が行われたか、HULFT Manager メイン画面の「バージョン情報」画面を開き、HULFT のバージョン情報が正しいか確認してください。また HULFT Manager メイン画面を使用して、各管理情報や履歴ファイルが正しく表示されるかどうか確認してください。正しく表示されない場合は、弊社までご連絡ください。

以上でリビジョンアップ作業は終了です。



## 第11章

# アンインストール方法

HULFT Managerのアンインストール方法について説明します。

## 11.1 HULFT Manager のアンインストール手順

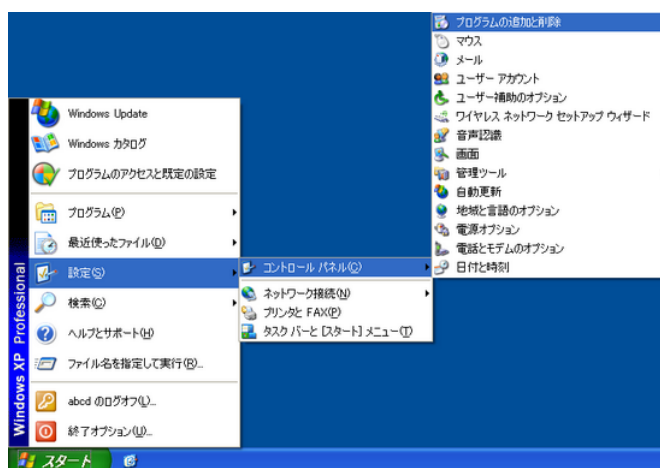
HULFT Manager をアンインストールする手順を説明します。

### 11.1.1 HULFT Manager の終了

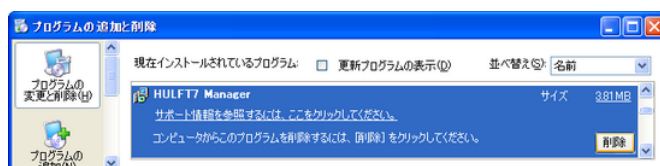
アンインストールを行う前に、HULFT Manager を終了してください。  
終了方法については、「6.1 HULFT Manager の終了手順」を参照してください。

### 11.1.2 HULFT Manager のアンインストール

[スタート]メニューの[設定]→[コントロールパネル]から[プログラムの追加と削除]をクリックします。「プログラムの追加と削除」画面が表示されます。



「プログラムの追加と削除」画面から HULFT Manager (インストール時に指定した登録名) を選択し、右側の[削除]ボタンをクリックします。



さらに、削除を確認するダイアログで[はい]ボタンをクリックすると、HULFT Manager のアンインストールが実行されます。

【備考】 HULFT Manager をアンインストールしても、SQLite ODBC Driver はアンインストールされません。個別にアンインストールする必要があります。SQLite ODBC Driver をアンインストールする場合は、他のアプリケーションで使用されていないことを事前に確認したうえで作業してください。  
アンインストール方法は、SQLite ODBC Driver のドキュメントを参照してください。

# HULFT7 Manager

## 導入マニュアル

2008年 10月 1日 第1版発行  
2009年 4月 1日 第3版発行

株式会社 セゾン情報システムズ



SAISON  
INFORMATION  
SYSTEMS  
CO.,LTD.